

EaseUS® Todo Backup マニュアル

Workstation / Server / Advanced Server 版



もくじ

ご利用頂きありがとうございます	1
はじめに	1
ハードウェア要件	1
システム要件	1
対応しているファイルシステム	2
対応しているハードディスク	2
ライセンス認証	2
製品比較	5
メイン画面	7
バックアップ	8
システムバックアップ	8
ディスク/ボリュームバックアップ	10
コマンドラインバックアップ	12
ファイルバックアップ	15
スマートバックアップ	16
メールバックアップ	18
スケジュールバックアップ	19
スケジュール設定	19
バックアップ方法	21
バックアップクリーンアップ	22
バックアップタスクの編集	24
バックアップオプション	25
クラウドにバックアップ	30
復元	31
システムの復元	32
ディスク/パーティションの復元	33
ファイルの復元	36
スマートバックアップの復元	37
メールの復元	38
参照して復元	38
個別ファイルの復元	39
システム移行	39
クローン	42
ディスククローン	42

パーティションクローン	44
システムクローン	46
上級者向けサーバーツール	49
Exchange のバックアップ	49
SQL バックアップ	50
ツール	54
タスクのインポート/エクスポート	54
イメージをチェック	58
ブータブルディスクの作成	59
テープ管理	60
Pre-OS を有効/無効にする	60
iSCSI イニシエーター	62
PXE を有効/無効にする	62
P2V コピー	63
P2V 復元	65
P2V の変換	65
マウント/アンマウント	66
WinPE の特別ツール	68
Windows シェル	68
ドライバマネージャー	68
ネットワークマネージャー	68
MBR の修理	68
パーティションのチェック	68
ログ	69
基本設定	69
サポート	70
免責	71

ご利用頂きありがとうございます

EaseUS Todo Backup をご利用いただきありがとうございます。本製品は、重要なデータと OS を強力に保護する総合データバックアップソフトとして、全世界で百万を超える家庭用 PC、ワークステーション、サーバーで利用されています。

本製品は、その効率的かつ安定的なバックアップ方法で OS、電子メール、ディスク、パーティション、ドキュメント、写真、音楽等の重要なデータを保護します。

また、本製品で作成できる信頼性の高い .pdb イメージファイルにより、システムのクラッシュ、パーティションやディスクの破損、ウイルス感染、データ損傷などの問題から迅速かつ容易に回復することができます。

OEM のバックアップ製品とは異なり、EaseUS Todo Backup でバックアップまたはリストアを実行するために、ドライブに追加の隠しパーティションを作成する必要ありません。

はじめに

ここでは EaseUS Todo Backup を利用する上での基本要件と、ライセンス認証方法について解説します。ご利用前に一読されることをお勧めいたします。

ハードウェア要件

500 MHz 以上のプロセッサ

1GB 以上の RAM、Windows 8/8.1/10 の場合は 2GB 以上

ハードディスクに 1GB 以上の空き領域

CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW もしくは DVD+R DL ドライブ

キーボード、マウスまたはその他のポインティングデバイス

システム要件

本製品が動作対応している OS は以下の通りです。

- Windows XP®
- Windows Vista®
- Windows® 7
- Windows® 8
- Windows® 8.1

- ・ Windows® 10
- ・ Windows Server® 2003
- ・ Windows Server® 2008
- ・ Windows Server® 2008 R2
- ・ Windows Server® 2012
- ・ Windows Server® 2012 R2
- ・ Windows Server® 2016
- ・ Windows Small Business Server 2003
- ・ Windows Small Business Server 2008
- ・ Windows Small Business Server 2011

対応しているファイルシステム

FAT12、FAT16、FAT32 および NTFS のファイルシステムに対応しています。その他のファイルシステムは「**その他**」と表示されます。その他のファイルシステムを使用してドライブをバックアップまたはクローンすると、自動的にセクターモードに切り替わります。

対応しているハードディスク

EaseUS Todo Backup は、IDE、EIDE、SATA、ESATA、ATA、SCSI、iSCSI、USB 1.1 / 2.0 / 3.0 ディスク、Firewire ディスクをサポートしています。

上記のディスクについては、CD-R/RW DVD-R/RW DVD+R/RW DVD+R DL に EaseUS Todo Backup のバックアップイメージを保存することができます。

また、ダイナミックディスク、MBR および GPT ディスクにも対応しています。EaseUS Todo Backup が対応しているディスク容量の上限は **16TB** です。

ライセンス認証

EaseUS Todo Backup トライアル版を初めて起動するとライセンスコード入力画面が表示されます。25 桁のライセンスコードを入力すると、製品版としてご利用いただけるようになります。

ライセンス認証

×

Todo Backup	Workstation	Server	Advanced Server
ファイル/ディスク/パーティション/ Outlook メールバックアップと復元	✓	✓	✓
フル/増分/差分/ スケジュールバックアップ	✓	✓	✓
クラウドへのバックアップに対応	✓	✓	✓
Windows Server 2012, 2008,2003,SBSに対応	—	✓	✓
PXEネットワークブート	—	✓	✓
Exchange サーバーバックアップと復元	—	—	✓
SQL サーバーバックアップと復元	—	—	✓
	今すぐ購入	今すぐ購入	今すぐ購入

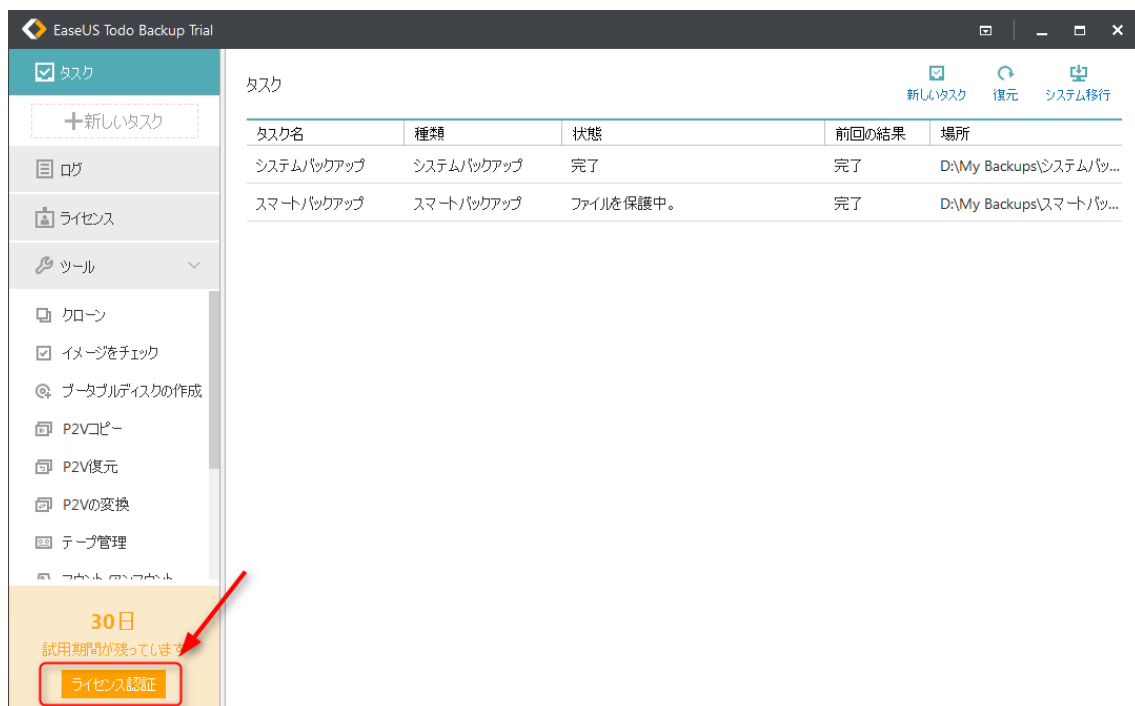
現在のライセンス： 試用版:残り30日

ライセンスコード：

ライセンス認証

後で

「後で」をクリックすると 30 日間の試用版として利用を開始します。画面左下の「ライセンス認証」をクリックすると、ライセンスコード入力画面を再表示できます。



オフライン認証

EaseUS Todo Backup はオフラインによるライセンス認証にも対応しています。
詳細は[こちら](#) を参照してください。



Copyright © 2004-2016 EaseUS. ALL RIGHTS RESERVED.

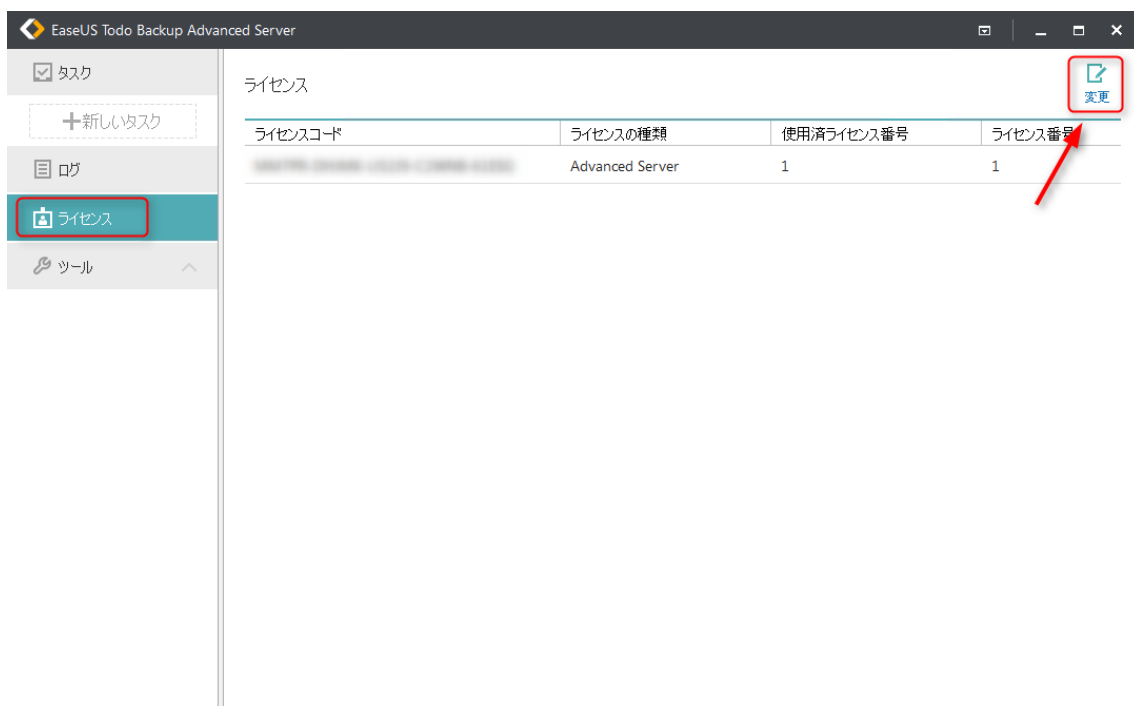
<http://backup.easeus.jp/rd/about>

ヒント:

マシンコードとはハードウェア情報に基づいて本製品が生成した独自のコードで、ライセンスコードに紐づけられています。

ライセンスコードの変更

ライセンスコードを新しいものへ変更する場合は、画面左列の「ライセンス」をクリックした後、画面右上の「変更」をクリックして認証画面を表示させてください。



注意：

製品の種類によってライセンスコードは異なります。変更には同じ製品のライセンスコードをご使用ください。

製品比較

EaseUS Todo Backup Enterprise には、Workstation、Server、Advanced Server、Technician の 4 製品が用意されています。

Workstation、Server、Advanced Server はトライアル版からのアップグレードが可能です。

Technician は別途インストールファイルが必要です。

トライアル版は 30 日間限定で全ての機能が利用できます。Technician のテストにはトライアル版をご利用ください。

Workstation : 企業ユーザー向けバージョンで、ダイナミックボリュームのバックアップ/クローン、システム移行、仮想化などの追加機能もご利用いただけます。

Server : Windows Server 向けのバージョンで Workstation の機能を全ての Windows Server OS でご利用いただくことができます。

Advanced Server : Windows Server の上級ユーザー向けバージョンで Server の機能に加え、Exchange Server や Microsoft SQL のバックアップにも対応しています。

Technician : システム管理者や技術者など IT 専門家向けバージョンで製品の全機能に加えてテクニカルサービスもご利用いただくことができます。

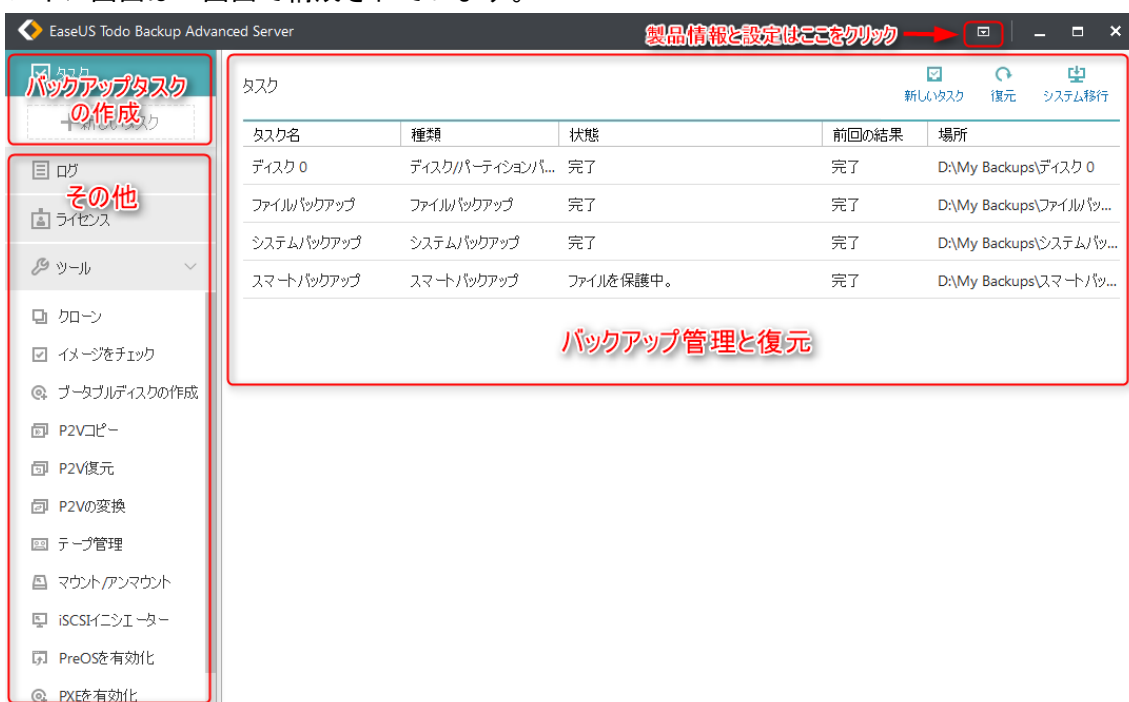
製品機能比較

	Workstation	Server	Advanced Server	Technician
スマートバックアップ	○	○	○	○
ディスク/パーティション バックアップ	○	○	○	○
ファイルバックアップ	○	○	○	○
増分/差分バックアップ	○	○	○	○
ダイナミックボリュームの バックアップ/クローン	○	○	○	○
定期バックアップ	○	○	○	○
システムバックアップ	○	○	○	○
イメージの保存設定	○	○	○	○
システム移行	○	○	○	○
MS SQL サーバーの バックアップ			○	○
Exchange サーバーの バックアップ			○	○
テープにバックアップ	○	○	○	○
WinPE ブータブルディスク	○	○	○	○
Pre-OS の有効化	○	○	○	○

Windows 右クリック バックアップメニュー	○	○	○	○
MS サーバーOS 対応		○	○	○
ビジュアル化 (P2V)	○	○	○	○
Outlook のバックアップ	○	○	○	○
E-mail 通知、pre/post コマンド	○	○	○	○
除外ファイル	○	○	○	○
コマンドラインバックアップ	○	○	○	○
クラウドにバックアップ	○	○	○	○

メイン画面

メイン画面は 3 画面で構成されています。



バックアップタスクの作成

利用可能な全てのバックアップオプションがここから選択できます。「新しいタスク」をクリックしてタスク作成画面に進んでください。

個別の機能に関する詳細は、各自別項をご参照ください。

バックアップ管理と復元

「バックアップ管理と復元」には、全てのバックアップタスクのリストが表示されます。リストの各行にはタスク名、イメージファイルの場所や状態などが表示されます。

バックアップタスクが選択されていない時は「復元」、「システム移行」の二つの復元オプションが表示されています。いずれかのバックアップタスクが選択されると、「復元」のみが表示されます。

その他

「ログ」、「ライセンス」および各種「ツール」メニューが含まれます。

バックアップ

重要なデータのコピーを取ることをバックアップと言い、PC にトラブルが発生した際の復旧作業に利用します。従って、バックアップの主な目的とはシステムのクラッシュやデータ損失に備える有効な手段であると言えます。

本製品を利用するメリットは次の通りです：

1. 定期的なバックアップを行うことができます（特別な操作を行うことなく自動的にバックアップを行います）。
2. 増分および差分バックアップにも対応しています。（最初に全てのバックアップを実行した後は、バックアップにかかる時間やディスク領域を削減することができます）。
3. 複数のバックアップデータを保存し、その中から最適なものを選んで復元することもできます。（例：同一ディスク上に1週間前、2週間前および3週間前のデータをバックアップし、その中からいつの状態に復元するか選ぶことができます）。
4. バックアップファイルをマウントして検索することができます（そこから探したいファイルを素早く見つけ、コピーすることも可能です）。

システムのイメージを元のドライブ、あるいは新しいドライブに復元することで、簡単にシステムを再起動できます。

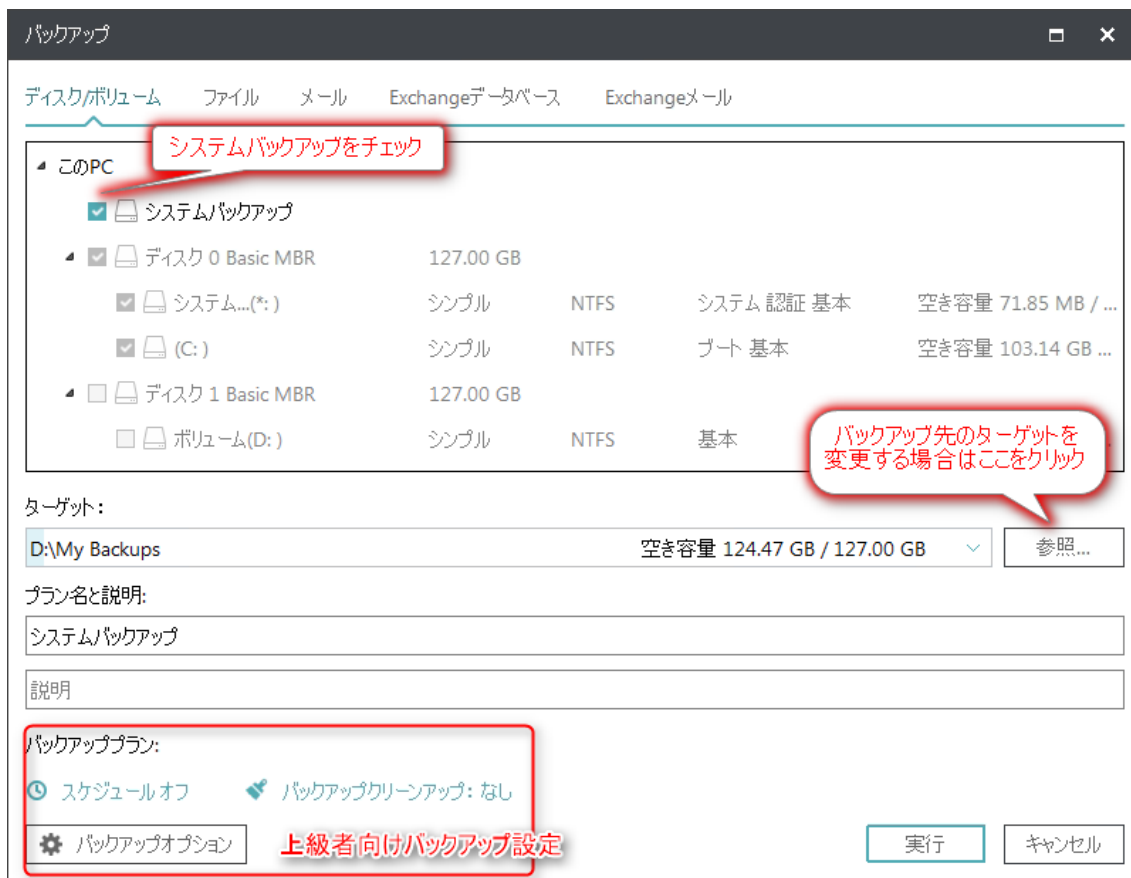
ヒント：

迅速かつ確実なバックアップをおこなうため、全てのプログラムを終了してからバックアップ作業を実行してください。また、バックアップしたイメージファイルの保存先はバックアップ元のファイルとは異なるパーティションやディスクにしてください。

システムバックアップ

言うまでもなく Windows OS は非常に重要であり、システムクラッシュに備えてそれを守る

ことが必要です。EaseUS Todo Backup はシステムバックアップによってその手段を提供します。まず「新しいタスク」をクリックし、バックアップタスクの作成画面を表示します。次に「ディスク/ボリューム」をクリックし、「システムバックアップ」のチェックボックスをチェックしてください。自動的に Windows の起動に必要なパーティションが選択されます。



基本設定：

ターゲット：「参照…」をクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明：検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定：

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。「スケジュール」でバックアップの期間やタイミングを、「バックアップオプション」で高度な各種パラメーターを、「バックアップクリーンアップ」でバックアップイメージの保存ルールを設定することができます。

個別の機能に関する詳細は、各自別項をご参照ください。

ヒント：

これらの設定はあくまで上級者向けです。設定を行わなくてもバックアップを作成することができます。

ディスク/ボリュームバックアップ

お使いの PC に複数のパーティションを持つハードディスクがある場合、システムバックアップは、この中でシステムの起動に必要なパーティションだけをバックアップします。残りのパーティションをバックアップする場合は、「ディスク/ボリュームバックアップ」を使用しましょう。

バックアップ

ディスク/ボリューム ファイル メール Exchangeデータベース Exchangeメール

このPC

- ☐ システムバックアップ
- ☒ ディスク 0 Basic MBR 127.00 GB
 - ☐ システム...(*) シンプル NTFS システム 認証 基本 空き容量 71.85 MB / ...
 - ☒ (C:) シンプル NTFS ブート 基本 空き容量 103.14 GB ...
- ☒ ディスク 1 Basic MBR 127.00 GB
 - ☒ ボリューム(D:) シンプル NTFS 基本

バックアップのターゲットを変更する場合はここをクリック

ターゲット:
D:\My Backups 空き容量 124.47 GB / 127.00 GB 参照...

プラン名と説明:
ディスクバックアップ

説明

バックアッププラン:
☒ スケジュール オフ ☒ バックアップクリーンアップ: なし

☒ バックアップオプション 上級者向けバックアップ設定

実行 キャンセル

基本設定：

ターゲット：「参照…」をクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明：検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定：

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。「スケジュール」でバックアップの期間やタイミングを、「バックアップオプション」

で高度な各種パラメーターを、「バックアップクリーンアップ」でバックアップイメージの保存ルールを設定することができます。

個別の機能に関する詳細は、各自別項をご参照ください。

ヒント：

これらの設定はあくまで上級者向けです。設定を行わなくてもバックアップを作成することができます。

よくある質問：

1. 「システムバックアップ」と「ディスク/ボリュームバックアップ」の違いは何ですか？

A: 「ディスク/ボリュームバックアップ」では表示された全てのパーティションをバックアップ対象として選択することができます。「システムバックアップ」ではシステム起動をつかさどるパーティションを自動選択し、これを変更することはできません。

詳細は[こちら](#)をご参照ください。(英語)

2. ネットワークドライブをバックアップできますか？

A: いいえ。EaseUS Todo Backup ではネットワークドライブ上のファイルやデータしかバックアップすることができません。

3. バックアップイメージはどこに保存したら良いでしょうか？

A: ローカルのハードディスク、ネットワークドライブおよびその他の記憶媒体に保存することができます。ただし、バックアップ元のパーティションと同一のパーティション内には保存しないでください。

4. ダイナミックボリュームとは何ですか？ EaseUS Todo Backup ではバックアップをサポートしていますか？

A: ダイナミックボリュームとはダイナミックディスクの一部です。ダイナミックディスクはLDM (Logical Disk Manager) データベースを使用してボリュームを管理します。ベーシックディスクと異なり、ダイナミックディスクは複数のボリュームに分割することができます。ダイナミックボリュームはデータの保存性能に秀でており、ミラーボリュームにおけるデータ冗長性や、RAID-5 ボリュームにおける耐障害性など、様々な機能を有しています。

EaseUS Todo Backup では、ダイナミックボリュームのバックアップもサポートしています。

バックアップ手順も、ベーシックディスクのバックアップ手順と同じです。大きな違いは表示方法です。全てのボリュームは、別のディスクに存在しても、同一のディスク上に存在するものとして表示されます。

コマンドラインバックアップ

EaseUS Todo Backup は、プログラム画面からではなく、Windows のコマンドラインを利用して直接バックアップタスクを作成することができます。作成できるのはディスクバックアップ、パーティションバックアップ、およびシステムバックアップです。

まずは Windows のコマンドプロンプトを管理者権限で起動してください。次に「etbcmd」と入力して、EaseUS Todo Backup コマンドラインツールを起動します：



```
Administrator: Command Prompt
Microsoft Windows [Version 10.0.10240]
(c) 2015 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\WINDOWS\system32>etbcmd
EaseUS Todo Backup command line tool. Version:
```

本ツールで利用できる全てのコマンドとパラメーターは次の通りです：

```

/a <action>          Specify the operation to execute.
                     list: Check disk/partition details
                     create: Create backup task
                     execute: Execute backup task immediately
/?                  EaseUS Todo Backup command line help information.

Operation:list
/d <disk>            Select disk number to view. If the disk number is not specified, all disk
                     information will be displayed.
/?                  EaseUS Todo Backup command line help information.

Operation:create
/n <name>            Set backup task name. If the specified task already exists, it will
                     automatically add number (1), (2)... after the task name.
/d <description>    (Optional) Add task description.
/s <source>          Specify backup source (such as system backup, disk backup or partition
                     backup)
                     For example: /s system System backup /s 1,2,3:2,F Back up Disk1, Disk 2,
                     Partition 2 of Disk 3 and Partition F:
/l <location>        (Optional) Specify storage path of backup image (local or network path is
                     available). If no storage path is specified, the backup image will be saved
                     in default path.
/u <username>        (If set to back up to network storage, network credential info is needed)
                     Network access username.
/p <password>        (If set to back up to network storage, network credential info is needed)
                     Network access password.
/e <encrypt>        (Optional) Set image encrypted password.
/c <compress>        (Optional) Set image compression level. If the parameter is not set, the
                     image compression level is normal.
                     0: no compression
                     1: normal compression
                     2: medium compression
                     3: high compression
/i <splitting>       (Optional) Set image splitting size(MB). If the parameter is not set or it
                     is set to 0, the image won't be split.
/r <raw>             (Optional) Execute sector-level backup. If the parameter is not set, the
                     non-sector-level backup will be executed.
                     0: non-sector-level backup
                     1: sector-level backup
/t <silent>          (Optional) Silent mode. If the parameter is not set, it defaults to
                     non-silent mode.
                     0: non-silent mode
                     1: silent mode
/?                  EaseUS Todo Backup command line help information.

Operation:execute
/n <name>            Set backup task name.
/t <type>            Specify backup type. If the parameter is not specified, the backup type is
                     full backup.
                     inc: incremental backup
                     dif: differential backup
                     full: full backup
/s <silent>          (Optional) Silent mode. If the parameter is not set, it defaults to
                     non-silent mode.
                     0: non-silent mode
                     1: silent mode
/?                  EaseUS Todo Backup command line help information.

```

バックアップタスクの作成例：

```

For example:
etbcmd.exe /a create /n "Demo Task" /d "This is a Demo Task" /s 0:1 /l "D:\my backup" /e "password" /c 1 /i 0 /r 0 /t 0

```

バックアップを作成する前に、目的の場所を探すため、全てのディスクボリュームとパーティションを表示させてください。


```
C:\WINDOWS\system32>etbcd /a list

Disk ID: 0 (GPT Basic), Sector count: 625142415, C: 16065 H: 9922895 S: 63
ID Letter Type Capacity Used Unused State Primary Start (MB)
0 * Unknown 300.00 MB 300.00 MB 0Bytes None Primary 1
1 * Unknown 100.00 MB 100.00 MB 0Bytes System Primary 301
2 * Unknown 128.00 MB 128.00 MB 0Bytes None Primary 401
3 C: System NTFS 77.41 GB 57.19 GB 20.22 GB Boot Primary 529
4 * Unknown 450.00 MB 450.00 MB 0Bytes None Primary 79796
5 D: VMware NTFS 79.10 GB 75.82 GB 3.28 GB None Primary 80246
6 E: Work NTFS 78.13 GB 32.95 GB 45.18 GB None Primary 161244
7 F: Download NTFS 62.50 GB 20.27 GB 42.23 GB None Primary 241244
```

OS のシステムバックアップを行う場合は、「/s system」のパラメーターを使用してください。EaseUS Todo Backup がシステムと起動に必要なパーティションを自動選択します。

手動で OS のディスク/パーティションバックアップを行う場合は、以下のようにコマンドを入力してください：

```
C:\WINDOWS\system32>etbcd.exe /a create /n "Demo Task" /d "This is a Demo Task" /s 0:1,0:3 /1 "F:\my backups" /e "123456" /c 1 /i "4096" /r 0 /t 0
Task name: Demo Task (1)
Compress level: Normal compression
The image is encrypted
Backup task type: Local Full Disk Backup
The content of backup: C:\ partitions and 1 partitions without drive letter (Unknown Partition).
Initializing backup, please wait...
Checking file system on partition 4 of disk 0 (C:\).
Todo Backup has checked the partition and found no problems.
Backup is running, please wait patiently.
Analyzing file system on partition 4 of disk 0 (C:\).
Backing up file system on partition 4 of disk 0 (C:\).
Process: 23%...
```

バックアップイメージをネットワークドライブに保存するには、以下のようにコマンドを入力してください：

```
C:\WINDOWS\system32>etbcd /a create /n Demo /s 0:1 /1 \\192.168.1.110\Backup /u zhihui /p easeus
Task name: Demo
Compress level: Normal compression
The image is unencrypted
Backup task type: Local Full Disk Backup
The content of backup: 1 partitions without drive letter (Unknown Partition).
Initializing backup, please wait...
Backup is running, please wait patiently.
Analyzing file system on partition 1 of disk 0.
Backing up file system on partition 1 of disk 0.
Process: 82%...
```

ファイルバックアップ

長期間に渡って PC を使用していくうちに、ドキュメント、写真、音楽、動画などを含む重要なデータが蓄積されます。これらを定期的にバックアップすることが推奨されます。ファイルバックアップ機能を使用すれば、予期せぬデータ損傷に備えることができます。

基本設定：

ターゲット：「参照…」をクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明：検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定：

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。「スケジュール」でバックアップの期間やタイミングを、「バックアップオプション」で高度な各種パラメーターを、「バックアップクリーンアップ」でバックアップイメージの保存ルールを設定することができます。

個別の機能に関する詳細は、各自別項をご参照ください。

ヒント：

これらの設定はあくまで上級者向けです。設定を行わなくてもバックアップを作成することができます。

スマートバックアップ

バージョン 9.2 以降のスマートバックアップは、ファイルバックアップの機能に含まれています。スマートバックアップは、30 分おきに指定されたファイルやフォルダを確認し、変更があった場合に新しいバックアップ作成します。

The screenshot shows the 'Backup' window with the 'File' tab selected. On the left, a tree view shows 'Documents' and 'Desktop' selected. The main table lists the following items for backup:

名前	サイズ	種類	変更日時
My Music		フォルダー	2016/01/12 10:29
My Pictures		フォルダー	2016/01/12 10:29
My Videos		フォルダー	2016/01/12 10:29
desktop.ini	402 バイト	構成設定	2016/01/12 14:03

Below the table, the 'Target' is set to 'D:\My Backups' with a capacity of 124.44 GB / 127.00 GB. The 'Plan Name and Description' is 'File Backup'. The 'Description' field is empty. In the 'Backup Plan' dropdown, 'Smart Backup' is selected. A red callout bubble points to this option with the text 'スマートバックアップを選択してください'.

注意：

スマートバックアップは、ディスク/ボリュームバックアップには対応していません。
ネットワーク上にあるファイルやフォルダのバックアップにも対応していません。

スマートバックアップはこのような場合にご使用ください

ケース：

1. 頻繁に変更されるデータベースファイルをバックアップしたい

2. 頻繁に更新される共有ファイルをバックアップしたい
3. 不具合の発生時に、正常なファイルへの修復や以前の状態への復元を行うため、複数のバックアップポイントを作成しておきたい

生成されるバックアップイメージの種類

バックアップイメージには、**完全バックアップ**、**増分バックアップ**、**差分バックアップ**の3種類があります。

スマートバックアップによって、最初に作成されるバックアップイメージは**完全バックアップ**です。そこから7日おきに、新たな**完全バックアップ**が作成されます。

他の日は1日の最初に**差分バックアップ**が作成され、それ以降は**増分バックアップ**が作成されます。7日目には**差分バックアップ**は作成されず、再び**完全バックアップ**が作成されます。

PCの電源が切られている場合、またはなんらかの原因でPCが機能していない場合は、無効日とみなされバックアップは作成されません。

古いイメージファイルの取り扱い

ハードディスク容量を確保するため、スマートバックアップは次のルールに従って古いイメージファイルを削除します。

1. 前日に作成された全ての増分ファイルは、翌日最初のイメージファイルが生成された時点で消去されます。
2. 一度に保存できる差分イメージの上限は6個です。7個目のファイルが生成された後、最初のファイルは削除されます。
3. 同様に、一度に保存できる完全イメージファイルの上限は2個です。

ヒント：

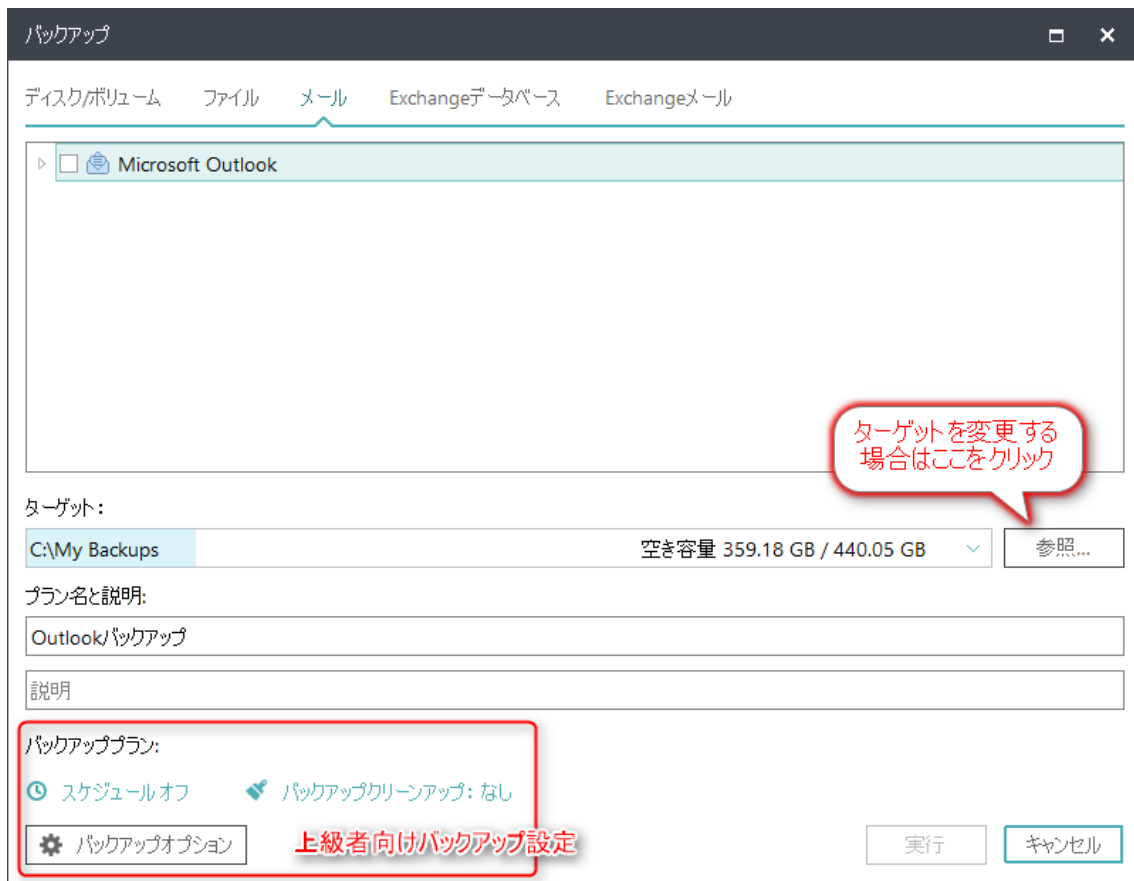
スマートバックアップは、*Windows* エクスプローラ上でフォルダ/ファイルを右クリックすると表示される、コンテキストメニューからも開始できます。その場合、コンテキストメニューから「**選択したファイルをスマートバックアップに追加**」を選択してください。

メールバックアップ

メールは今やコミュニケーションの主要な手段であり、Microsoft Outlook は最も多くのユーザーにより使用されています。時間が経つにつれ、重要なメールも増えてくることでしょう。EaseUS Todo Backup を利用すれば、それらをバックアップして不測の事態に備えることができます。

ヒント：

本機能は *Windows Live Mail* および *Mozilla Thunderbird* には対応していません。



バックアップするコンテンツを指定します。メールボックス全体のほか個別フォルダ、連絡先、カレンダーをバックアップすることができます。

基本設定：

ターゲット：「参照…」をクリックしてバックアップの保存先を指定します。

プラン名と説明：検索を容易にするため、プラン名とプランに関する説明を設定します。

上級者向けバックアップ設定：

これらを設定することで、フレキシブルな自動バックアッププランを作成することができます。「スケジュール」でバックアップの期間やタイミングを、「バックアップオプション」で高度な各種パラメーターを、「バックアップクリーンアップ」でバックアップイメージの保存ルールを設定することができます。

個別の機能に関する詳細は、各自別項をご参照ください。

ヒント：

これらの設定はあくまで上級者向けです。設定を行わなくてもバックアップを作成することができます。

スケジュールバックアップ

バックアップスケジュールを設定することで、一定間隔または指定した時点で自動的にバックアップが実行されます。

ここでは、スケジュールの設定方法と、バックアップイメージの保存設定について説明します。

スケジュール設定

種類

EaseUS Todo Backup では、5 種類のバックアップ方法を選択できます。

バックアップ方法

×

1回

毎日

毎週

毎月

イベント時

時間を指定して実行: ▾

0:00

⬇

+

バックアップ方法

増分

▾

☐ 毎日初めに実行するバックアップ

完全

▾

☒ バックアップを実行するためPCを起動

☒ スタートアップ時に実行できなかったバックアップをシャットダウン時に実行

Windows ログインユーザー:

パスワード:

保存

キャンセル

1 回

1 回限りのバックアップを実行する時間を指定します。

毎日

毎日指定された時間、または指定された間隔で自動的にバックアップが実行されます。

時間を指定して実行：バックアップを行う時間を指定します。指定時間を増やしたい場合

は **+** を、削除したい場合は **-** をクリックしてください。1 日最大 5 回まで設定できます。

間隔を指定して実行：バックアップの開始時間と完了時間、および間隔を指定します。例えば開始を午前 6 時、完了を午前 10 時、間隔を 2 時間とした場合、6 時、8 時および 10 時にバックアップが行われます。

毎週

毎週、指定された曜日の指定された時間にバックアップが実行されます。

毎月

毎月、指定された日の指定された時間にバックアップが実行されます。指定方法は日付、もしくは週と曜日から選択できます。同時にバックアップ実行時間の設定が必要です。

曜日を指定して実行：バックアップを実行する週と曜日、および時間を指定します。例)

毎月第1月曜の午前2時にバックアップを実行

日付を指定して実行：バックアップを実行する日付と時間を指定します。

イベント時

以下のイベント発生時にバックアップが自動的に実行されます。

システム起動時：システム起動時にバックアップを実行。

シャットダウン：シャットダウン時にバックアップを実行

ログオン時：Windows へログオンした時にバックアップを実行。

ログオフ時：Windows からログオフした時にバックアップを実行。

USB デバイス接続時：予め指定した USB デバイスが接続された時にバックアップを実行。

1日1回

有効にした場合、1日1回のみバックアップを実行します。

日付を指定して実行：

バックアップ実行日を指定します。無効にした場合は毎日バックアップを行います。

スタートアップ時に前回実行できなかったバックアップを実行

毎日、毎週、および毎月のバックアップを設定していたにもかかわらず、電源の不具合やPCのシャットダウンなどで実行できなかった場合、次のPC起動時にバックアップを自動で実行します。

注意：

Microsoft Exchange では「イベント時」機能はご利用いただけません。

バックアップ方法

バックアップ方法には「完全バックアップ」、「増分バックアップ」、「差分バックアップ」の3種類があります。

バックアップ方法

×

1回

毎日

毎週

毎月

イベント時

曜日を指定して実行:

日曜

月曜

火曜

水曜

木曜

金曜

土曜

時間

0:00

↑

↓

バックアップ方法

増分

完全

増分

差分

実行するバックアップ

☒ バックアップを実行するためPCを起動
 ☒ スタートアップ時に実行できなかったバックアップをシャットダウン時に実行

Windows ログインユーザー:

パスワード:

保存

キャンセル

増分または差分バックアップを選択した場合、最初のバックアップを「毎日」、「毎週」、「毎月」から選択することでバックアップイメージのチェーンを短縮することができます。

完全バックアップ、差分バックアップ、増分バックアップの違いは[こちら](#)（英語）をご参照ください。

注意:

スケジュールバックアップの設定は、管理者権限を持つアカウントで行うことを推奨します。

バックアップクリーンアップ

長期間に渡ってバックアップを繰り返すと、保存先ディスクの容量が圧迫されていきます。ここで古いバックアップイメージの削除ルールを設定することで、ディスク容量を確保できます。

22

バックアップクリーンアップ

×

以下より古い日付のバックアップイメージを削除

▼

1

日

▼

☒ 初めのイメージを削除しない

☐ イメージファイルを結合して保存
(複数のイメージがかさばらないようにできますが、バックアップに時間がかかります。)

OK

キャンセル

古いバックアップイメージは設定された期限、個数等の条件に従って削除されます。

初めのイメージを削除しない

有効にした場合、最初に保存したバックアップイメージは保存するバックアップイメージの数には含まれず、削除ルールによって削除されなくなります。

イメージファイルを結合して保存

有効にした場合、イメージファイルを結合してディスク領域を節約します。ただし、バックアップ作業に時間がかかります。

詳細は[こちら](#)をご参照ください。(英語)

バックアップタスクの編集

以下の画面から、作成済みのバックアップタスクを編集することができます。編集メニューは「復元」、「バックアップ」、「有効化/無効化」、「タスクを編集」、「詳細」、「その他」の中から使用可能なものが表示されます。

タスク名	種類	状態	前回の結果	場所
ファイルバックアップ (3)	ファイルバックアップ	次回の実行日時: 2016/06/29 18:15	完了	D:\My Backups\ファイルバック...
ディスク 1	ディスク/パーティションバ...	完了	完了	D:\My Backups\ディスク 1
システムバックアップ	システムバックアップ	完了	完了	D:\My Backups\システムバック...
スマートバックアップ	スマートバックアップ	ファイルを保護中。	完了	D:\My Backups\スマートバック...
ファイルバックアップ (1)	ファイルバックアップ	完了	完了	D:\My Backups\ファイルバック...
ファイルバックアップ	ファイルバックアップ	完了	完了	D:\My Backups\ファイルバック...

復元

バックアップイメージからファイルを復元します。詳細は別項をご参照ください。

バックアップ

完全バックアップ、増分バックアップまたは差分バックアップのいずれかを選んで即座に実行します。スケジュールバックアップが設定されている場合、次回以降のスケジュールバックアップにはカウントされません。

タスクを編集

作成したバックアップタスクに変更を加えることができます。

詳細

「基本情報」、「バックアップイメージ」、「バックアップ詳細」が含まれます。手動でバックアップイメージを削除するには「バックアップイメージ」をクリックしてください。

その他

イメージをチェック：詳細は別項をご参照ください。

P2V 変換：データを仮想ディスクファイルに変換し、VMware Workstation や MS Virtual PC で利用できるようにします。詳細は別項で説明します。

P2V 復元：システムを仮想ディスクファイルに変換し、VMware Workstation や MS Virtual PC で利用できるようにします。詳細は別項で説明します。

バックアップを削除：バックアップタスクのみを削除します。「イメージファイルの削除」にチェックを入れると、バックアップイメージも同時に削除されます。

バックアップオプション

バックアップオプションは、作成済みのタスクと新しいタスクの両方で設定可能です。

パフォーマンス

圧縮、優先度、分割バックアップ、インターネット転送速度が含まれます。

バックアップオプション

パフォーマンス

パスワード設定

Eメール通知

カスタムコマンド

オフサイトコピー

バックアップモード

ファイルフィルター

圧縮

標準

優先度

標準

分割バックアップ

カスタマイズ

MB (サイズを指定してください。最小で50MBです。)

インターネット転送速度

0

MB

初期設定に戻す

保存

キャンセル

圧縮

バックアップファイルは圧縮することができます。プルダウンメニューから圧縮率を選択してください。圧縮率が高いほどイメージファイルのサイズが小さくなります。

優先度

Windows 上では複数のアプリケーションが同時に実行されていますが、ここで優先度を設定することでバックアップを優先的に実行することができます。

分割バックアップ

大容量のイメージファイルを小さく分けて複数枚の DVD に保存すると言った場合のように、バックアップイメージを数個に分割することができます。

自動：保存媒体のファイルシステムに基づいて最適なサイズに分割します。

手動：既定のサイズから選択、あるいは分割サイズを直接入力します。最小サイズは 50MB です。

ネットワーク転送速度

0 Mbps に設定した場合は無制限となり、利用可能な全ての出入カリソースが本製品に割り当てられます。

注意：

jpg、pdf、mp3 などとともに高圧縮率のファイルが含まれる場合には、バックアップイメージの圧縮率を「高」にした場合でも、イメージのサイズが大きく圧縮されない場合があります。

パスワード設定

バックアップファイルをパスワードで保護するには、「バックアップ暗号化を有効にする」を有効にしてください。パスワードの文字数は 15 文字未満です。パスワードの保護には AES256 アルゴリズムを採用しています。

パスワードは忘れないように保存してください。パスワードを忘れた場合、暗号化を解除することはできません。

E-mail 通知

ログを直接確認する以外に、E-mail によってバックアッププランの結果を通知することができます。

SMTP やその他の設定値を入力すればバックアッププランの結果をメールで受け取ることができます。詳細は[こちら](#)を参照してください。（英語）

カスタムコマンド

バックアップ完了後に PC をシャットダウンするなど、バックアップの前後いずれかでコマンドを実行することができます。詳細は[こちら](#)を参照してください。（英語）

オフサイトコピー

バックアップイメージをより厳重に保管するには、オフサイトコピーを設定する方法があります。これにより、バックアップが完了したイメージを自動的に指定した FTP 上に複製できます。

バックアップオプション

パフォーマンス
パスワード設定
Eメール通知
カスタムコマンド
オフサイトコピー
バックアップモード
ファイルフィルター

☐ FTPコピーを有効化

FTPアドレス21

ユーザー名パスワード

☐ 匿名 ☐ パッシブモード

再試行

0

テスト接続

初期設定に戻す

保存

キャンセル

基本設定：

FTP アドレス：サブディレクトリを含む FTP アドレスを入力します。

ポート：FTP 接続に使用するポート番号を入力します。

ユーザー名とパスワード：FTP サーバーに接続する際のユーザー名とパスワードを入力します。

注意：

FTP への接続にパスワードとユーザー名を設定しない、もしくは全ユーザーにアクセスを許可する場合は「匿名」にチェックを入れてください。

追加設定：

再試行：再試行する回数を設定します。何らかの理由で FTP サーバーに接続できなかった場合、指定した回数だけ再接続を試みます。

パッシブモード：FTP には「PORT」と「PASV」の2種類のモードがあります。PORT モードが初期設定されています。チェックを入れると PASV モードに変更されます。

テスト接続：設定された内容で FTP サーバーへの接続を確立できるかテストします。

バックアップモード

バックアップオプション

パフォーマンス

パスワード設定

メール通知

カスタムコマンド

オフサイトコピー

バックアップモード

ファイルフィルター

ディスクボリュームバックアップ

☐ セクタバイセクタバックアップ

ファイルバックアップ

☒ バックアップのファイルセキュリティ設定を保存

☐ 再解析ポイントに関するコンテンツをすべて含める

初期設定に戻す

保存

キャンセル

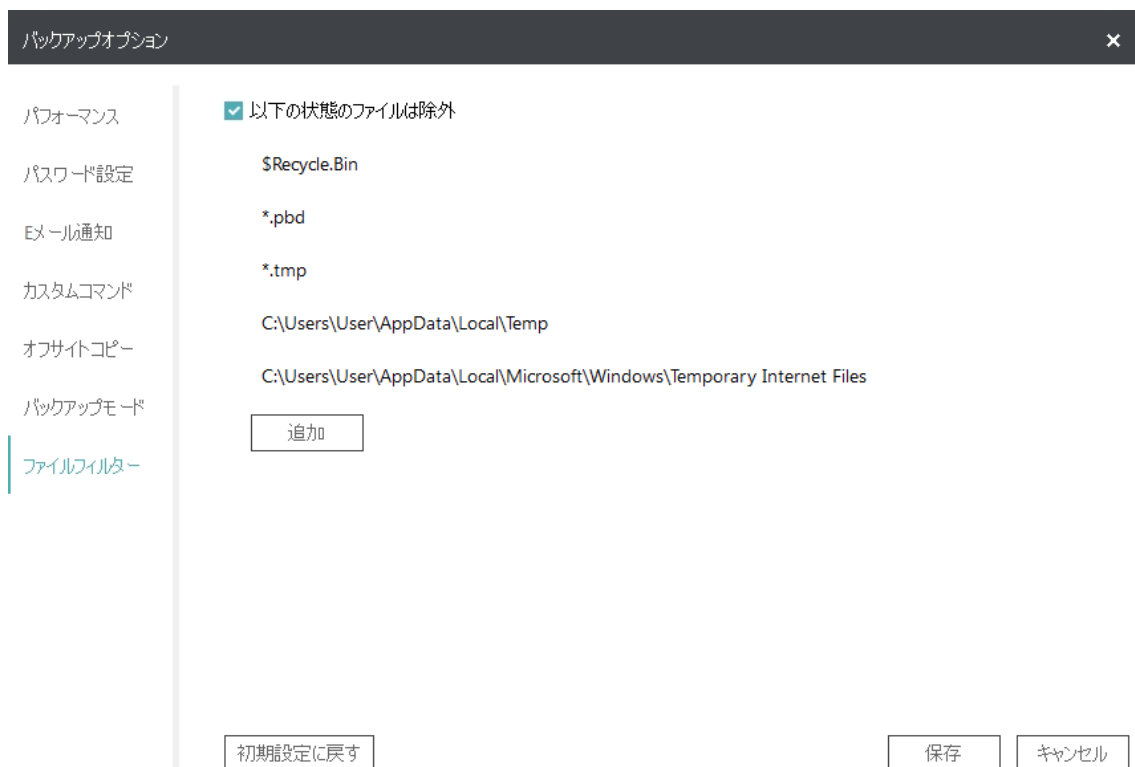
セクタバイセクタバックアップ：チェックを入れると、すべてのデータセクタとブランクがバックアップの対象になります。これはファイルシステムエラーが発生した時に有効ですが、通常のバックアップと比較してイメージサイズが大きくなり、バックアップ速度が遅くなります。

バックアップのファイルセキュリティ設定を保存：チェックを入れると、NTFS 暗号化ファイルのセキュリティ属性が保存されます。

再解析ポイントに関するコンテンツをすべて含める：チェックを入れると、すべてのWindows 再解析ポイントまたはリンクをバックアップに含めます。この機能はイメージサイズが巨大化するため推奨されません。

ファイルフィルター

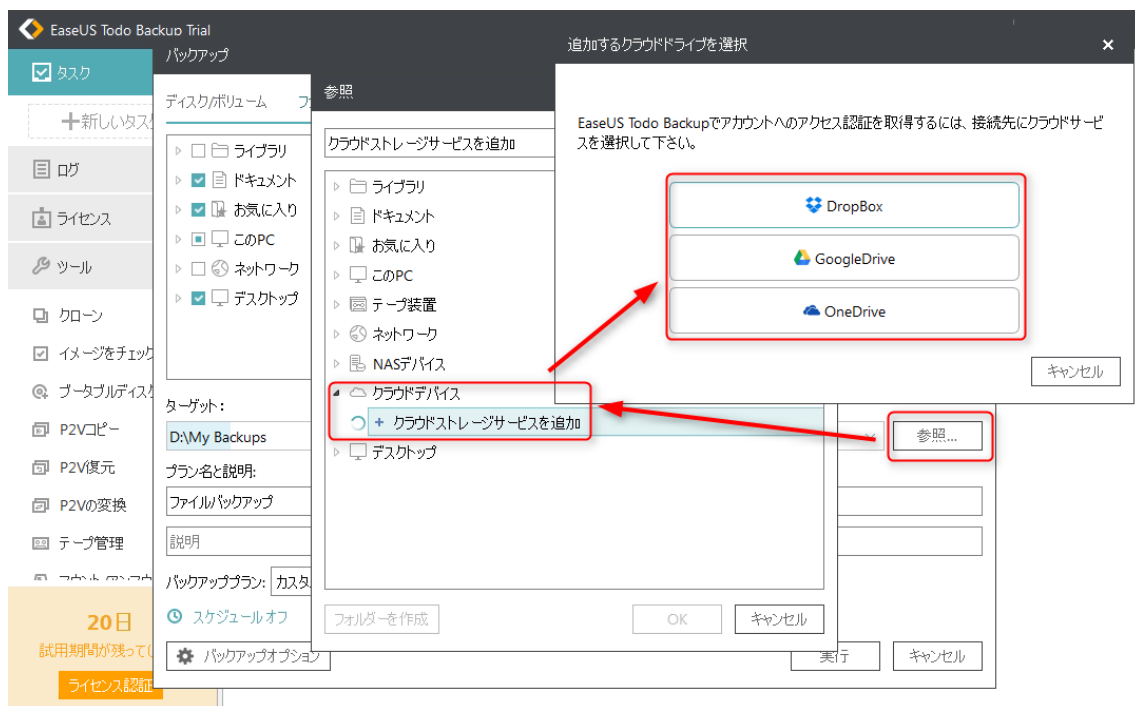
ファイルフィルターにより、不要なファイル/フォルダをバックアップから除外できます。



以下の条件を満たしているファイルを除外：除外する対象に新しいファイル/フォルダを追加するには、[追加]をクリックします。追加されたファイル/フォルダを削除するには、ファイル/フォルダを選択して[削除]をクリックします。

クラウドにバックアップ

EaseUS Todo Backup で作成した「ファイルバックアップ」、「スマートバックアップ」、「メールバックアップ」および「Exchange バックアップ」をクラウド上に保存することができます。現在対応しているクラウドは OneDrive、DropBox および Google ドライブです。



クラウドアカウントは使用するクラウドを選択後に表示されるウェブ画面で設定します。
Google ドライブの場合、次のような画面が表示されます：

▼ EaseUS Todo Backup が次の許可をリクエストしています：



復元

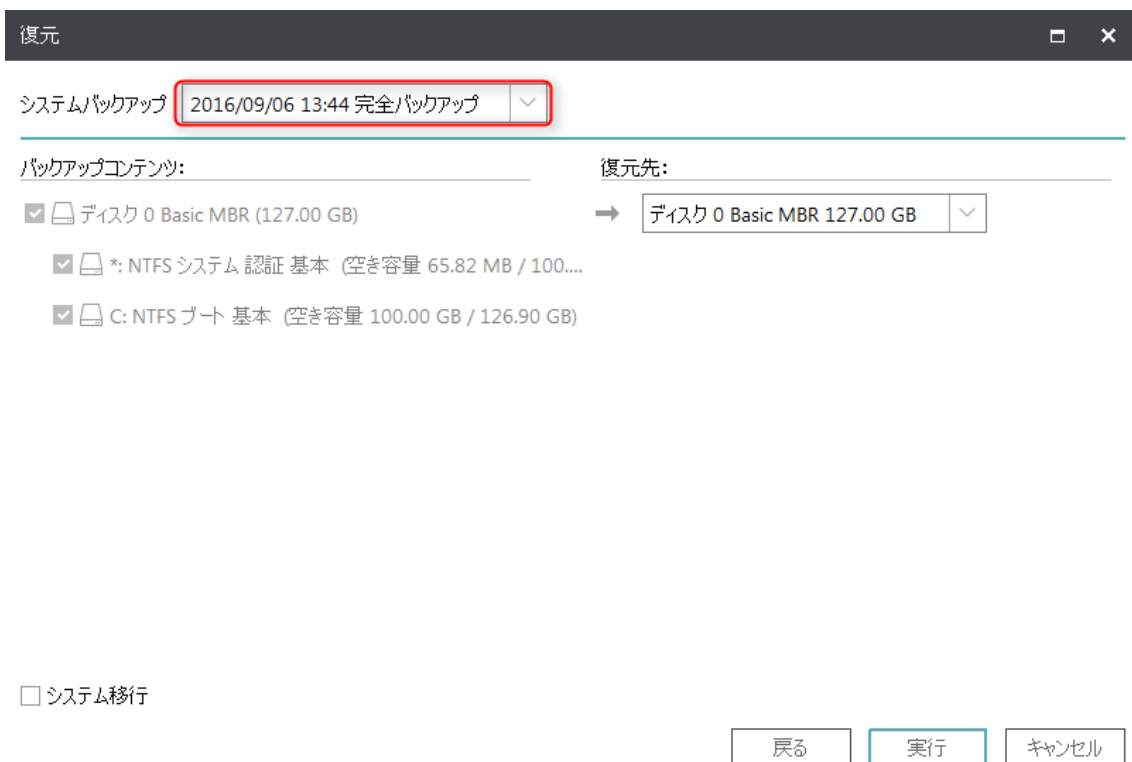
バックアップと反対のプロセスをおこなうことを復元と言います。圧縮されたバックアップファイルを解凍し、復元することでバックアップイメージが作成された時の PC の状態に戻します。PC を襲うウイルス感染、クラッシュ、パーティション損失、ファイル破損などの様々な悲劇にシンプルな方法で備えることができます。

システムの復元

まずシステムバックアップのタスクを選択し、「復元」ボタンをクリックします。



バックアップイメージを選択して内容を確認します。「実行」をクリックすると指定した復元先で復元を行います。



注意:

システムの復元を実行する場合は元のシステムが上書きされてしまいますので、特にご注意ください。エラーを起こした OS を復元する場合は WinPE ブータブルディスクあるいは Pre-OS が必要となります。

上級者向け復元設定

上級者向け設定を活用することで多くの場合、より安定的でスムーズにバックアップを復元できますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシステムの完全な復元を行うことができます。

システム移行：Windows を含むイメージを別の PC に移動します。詳細は別途解説します。

SSD に最適化：ターゲットディスクに SSD を設定した場合にチェックを入れると適切なセクタ配列でシステムを復元します。

セクタバイセクタ復元：イメージファイルの内容をセクタごとに復元します。元のパーティションもしくはハードディスク上にあった微細なエラーさえ復元するかのように元の状態に忠実に復元します。

復元後、元のセクタにファイルを再配置する場合に使うこともできます。

ディスク/パーティションの復元

まずディスク/パーティションバックアップのタスクを選択し、「復元」ボタンをクリックします。



バックアップイメージを選択して内容を確認します。「実行」をクリックすると指定した復元先で復元を行います。

復元

Local Disk (C) 2016/08/26 15:33 完全バックアップ

バックアップコンテンツ: ディスク 0 Basic MBR (127.00 GB) → 復元先: ディスク 0 Basic MBR 127.00 GB レイアウト

☒ C: NTFS ブート 基本 (空き容量 102.05 GB / 126.90 GB)

☐ システム移行

戻る 実行 キャンセル

v9.3 以降のバージョンでバックアップを復元する場合は、パーティションごとに復元先を個別に選択できます。これにより、指定したパーティションのバックアップを指定したパーティションに復元することができます。

注意：

ディスク/パーティション復元を行う場合、ターゲットディスク上のデータは上書きされていきます。適切な復元対象ディスクが選択されていることを確認してから作業してください。

上級者向け復元設定

上級者向け設定を活用することで多くの場合、より安定的でスムーズにバックアップを復元できますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシステムの完全な復元を行うことができます。

システム移行： Windows を含むイメージを別の PC に移動します。詳細は別途解説します。

SSD に最適化： ターゲットディスクに SSD を設定した場合にチェックを入れると適切なセクタ配列でシステムを復元します。

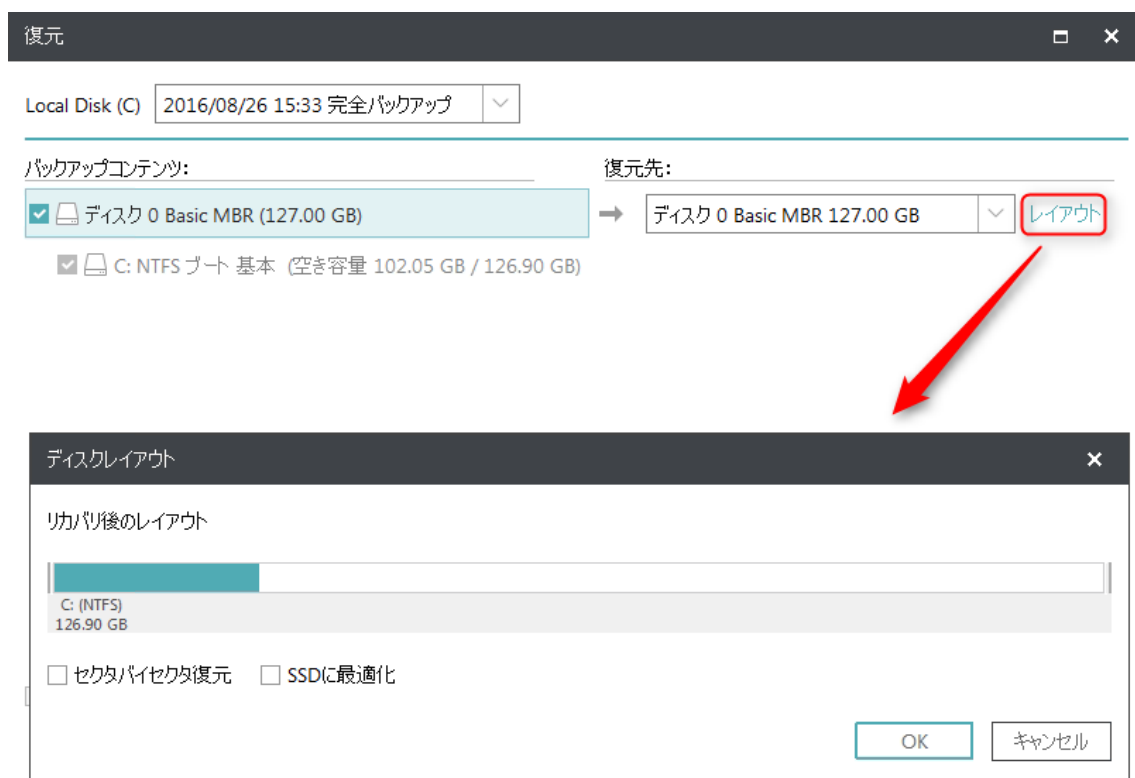
セクタバイセクタ復元： イメージファイルの内容をセクタごとに復元します。元のパーティションもしくはハードディスク上にあった微細なエラーさえ復元するかのように元の状

態に忠実に復元します。

復元後、元のセクタにファイルを再配置する場合に使うこともできます。

復元後のパーティションサイズを決定する

ターゲットディスクとソースディスクの容量がそれぞれ異なる場合、EaseUS Todo Backup は復元開始前にパーティションのサイズを自動調整します。また、手動で調整することも可能です。



1. 復元先ディスクを選択して「編集」ボタンをクリックします。
2. ディスク構造が表示されたら、パーティションをスライドして復元後のサイズを決定し、「実行」をクリックして復元します。

ダイナミックボリュームの復元

ダイナミックボリュームの復元手順はパーティションの復元とほぼ同様です。

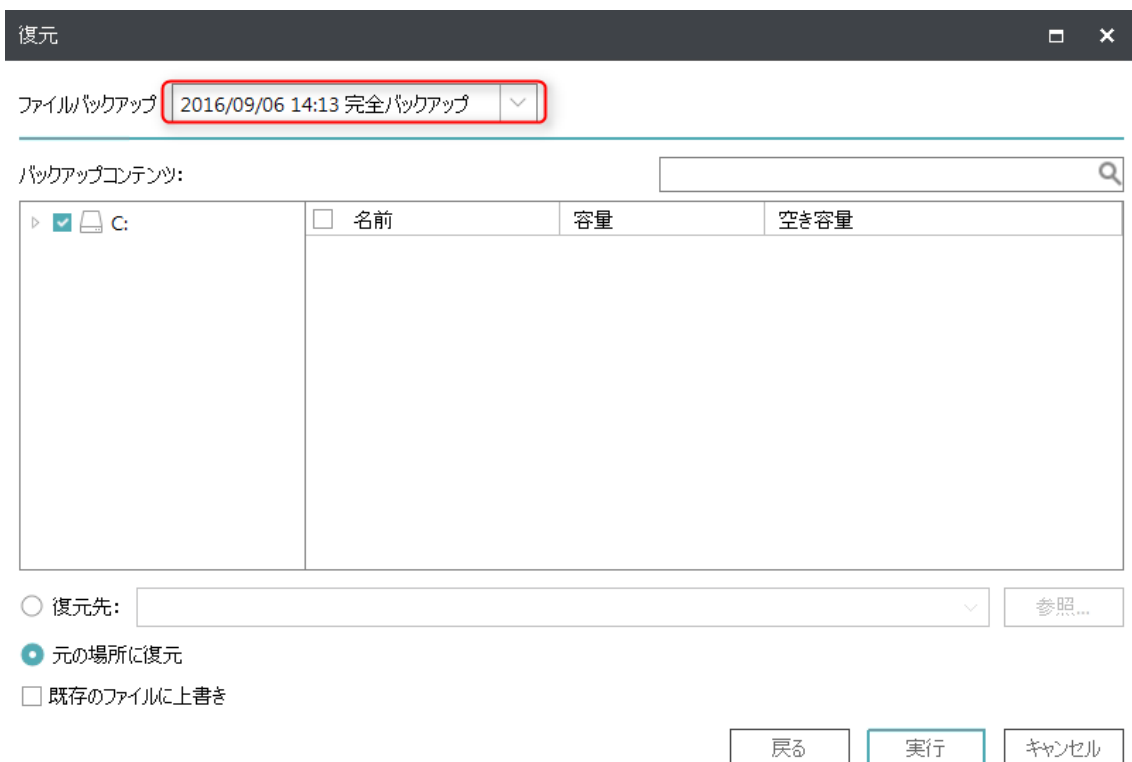
なお、ダイナミックボリュームに OS がインストールされている場合、ベーシックディスクに復元された際にプライマリパーティションになります。OS がインストールされていない場合は、論理パーティションになります。

ファイルの復元

まずファイルバックアップのタスクを選択し、「復元」ボタンをクリックします。



バックアップイメージを選択して内容を確認します。「実行」をクリックすると指定した復元先で復元を行います。



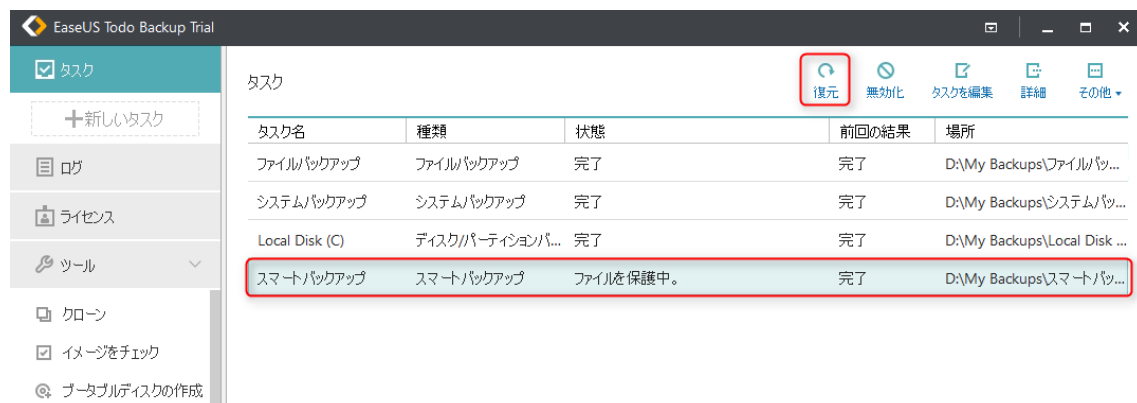
検索ボックスから、復元したいイメージを検索して指定することができます。

元の場所に復元： ファイルやフォルダを元の位置に復元します。

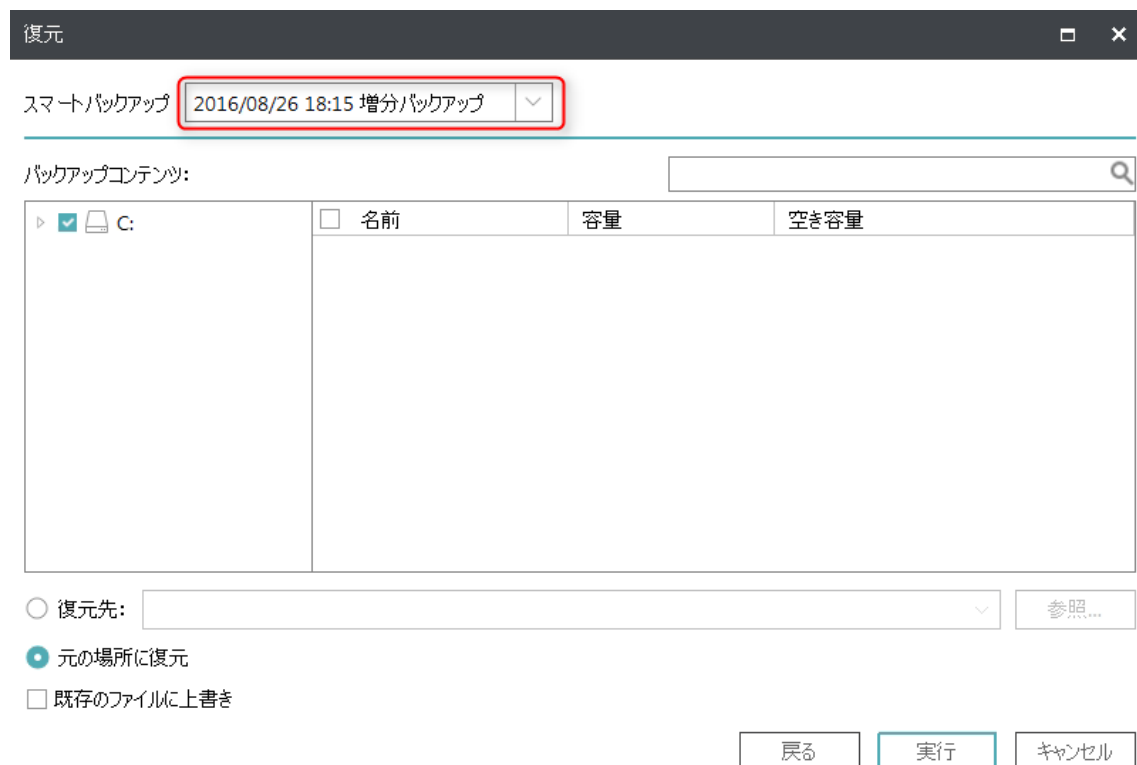
既存のファイルに上書き：有効にした場合、元のファイルとフォルダは復元後に上書きされます。

スマートバックアップの復元

まずスマートバックアップのタスクを選択し、「復元」ボタンをクリックします。



バックアップイメージを選択して内容を確認します。「実行」をクリックすると指定した復元先で復元を行います。



スマートバックアップの復元は「ファイルの復元」と同じです。

メールの復元

まずスマートバックアップのタスクを選択し、「復元」ボタンをクリックします。

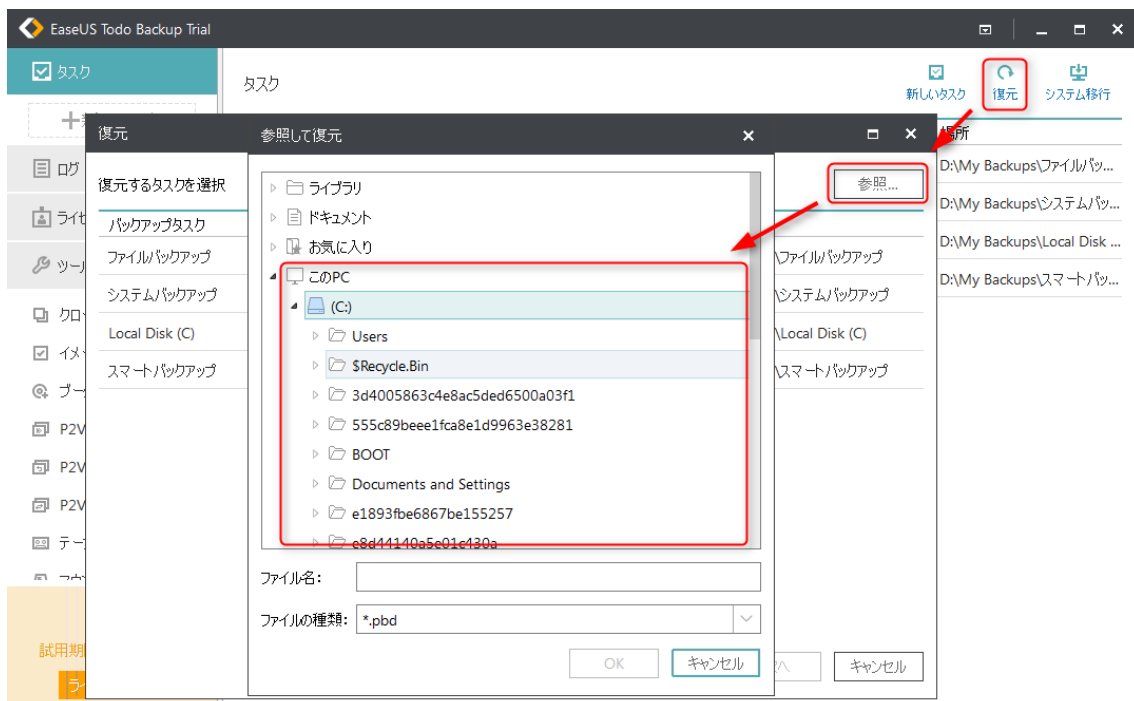
バックアップイメージを選択して内容を確認します。「実行」をクリックすると指定した復元先で復元を行います。

注意：

既存のメールおよび連絡先は復元によって上書きされません。バックアップイメージからの不足分を補完する形になります。

参照して復元

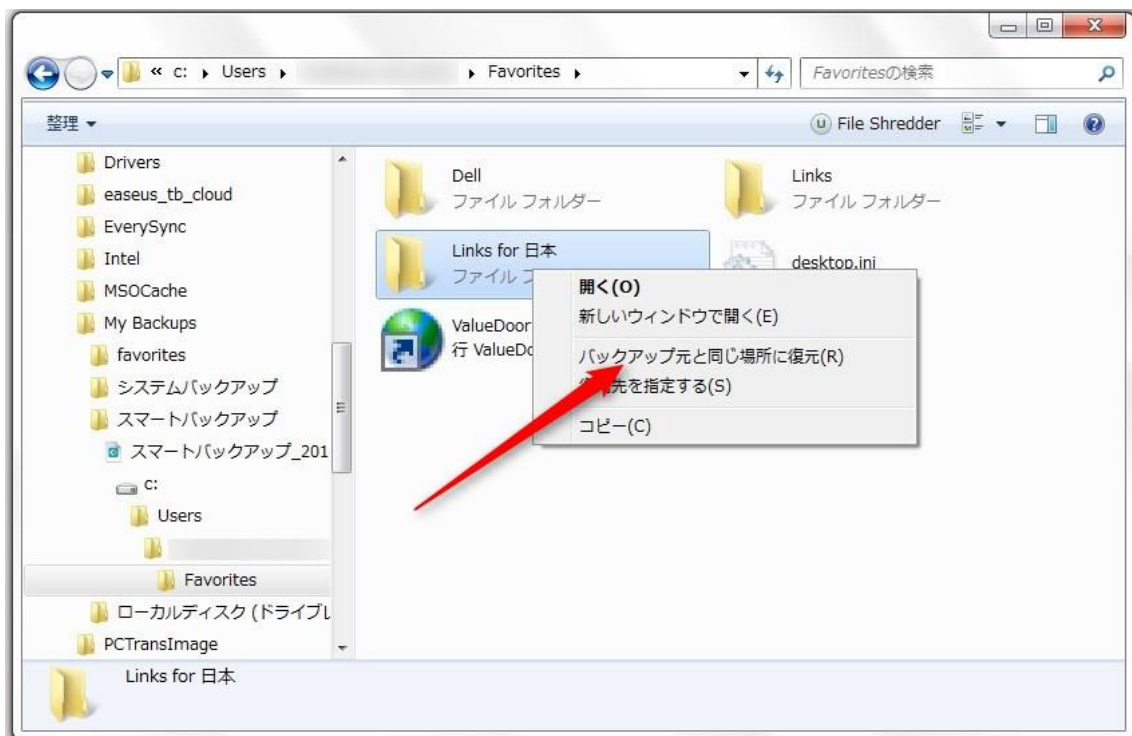
EaseUS Todo Backup を再インストールしたり、WinPE ブータブルディスクを使用してシステムを復元したりした場合、それまで作成したバックアップが失われてしまい、メイン画面にもバックアップが表示されなくなってしまうことがあります。そのような場合に「参照して復元」を利用します。



Windows のフォルダツリーからイメージを参照して復元に使用できます。

個別ファイルの復元

EaseUS イメージファイルに直接アクセスすることができます。PBD ファイルをダブルクリックもしくは右クリックで展開してください。ターゲットファイルを確認し、右クリックしてメニューを開いたり、コピーしたり、復元したりすることができます。



システム移行

通常、ハードウェアの動作にはドライバーが必要であり、現在使用している PC のシステムを構成の異なる PC にそのまま移動することはできませんし、ドライバーなしでハードウェアを動作させることもできません。

EaseUS Todo Backup の「**システム移行**」を使用すれば、次のような場合によく発生するトラブルを容易に解決することができます。

1. 新しく高性能な PC にシステムを移動する場合。
2. ハードウェア更新後に古いシステムを復元、継続使用する場合。



準備

以下のものをご準備ください。

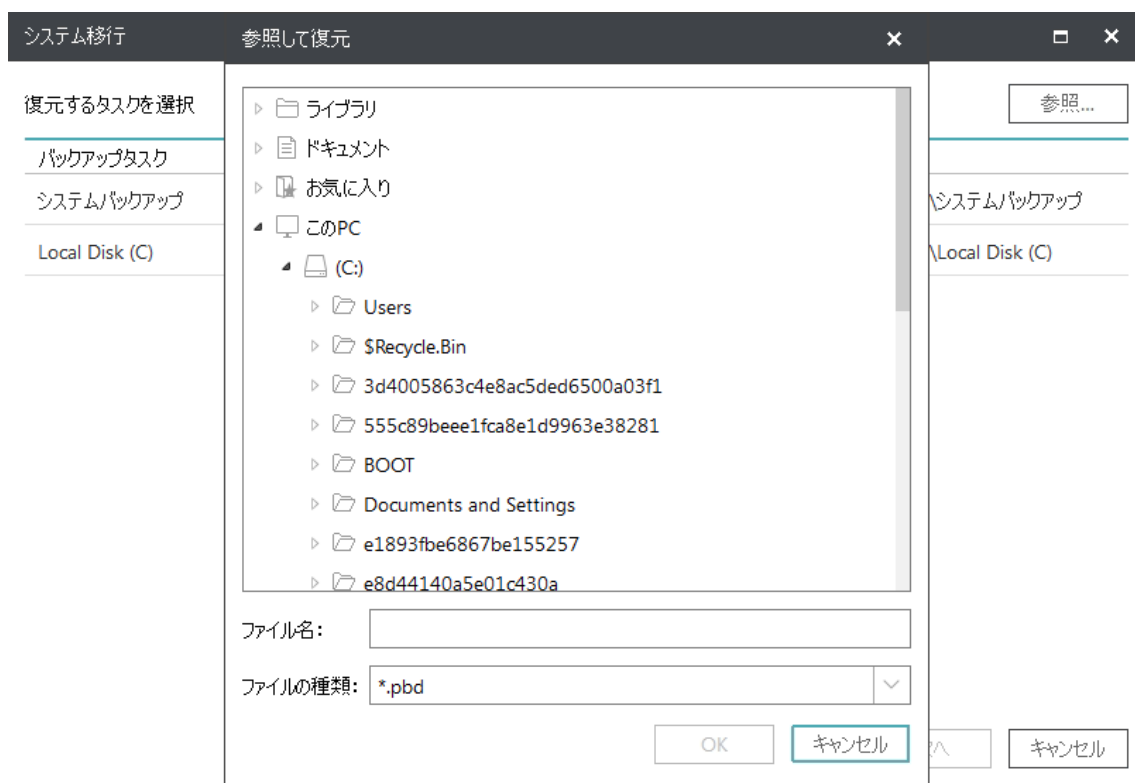
1. 「システムバックアップ」または「ディスク/ボリュームバックアップ」で作成した有効なイメージファイル。
2. 転送先マシンに接続もしくは挿入できる「WinPE ブータブルディスク」または「WinPE ブータブル USB」
3. 転送先マシン上に新しいハードウェア用の inf ドライバーファイル。

注意：

ディスク上に十分な領域が確保できる場合、WinPE ブータブルディスク上にシステムのイメージファイルや inf ドライバーファイルを保存することもできます。

手順

1. WinPE ブータブルディスクから転送先マシンを起動し、システムのイメージファイルが保存されているドライブが転送先マシンに接続されていることを確認します。
2. メイン画面内の「システム移行」をクリックします。
3. システムのイメージファイルを参照して選択します。



4. 復元先ドライブを選択します。
5. 復元が完了したらシステムが移転されたことを確認します。

システム移行

システムバックアップ

2016/09/06 13:44 完全バックアップ

▼

バックアップコンテンツ:

復元先:

☒ ディスク 0 Basic MBR (127.00 GB)

☒ *: NTFS システム 認証 基本 (空き容量 65.82 MB / 100....)

☒ C: NTFS ブート 基本 (空き容量 100.00 GB / 126.90 GB)

→

ディスク 0 Basic MBR 127.00 GB

▼

☒ システム移行

戻る

実行

キャンセル

注意：

RAID SCSI ドライブなど一部のドライブは WinPE 環境下ではデフォルト表示されません。また、ドライブを使用するには適切なドライバーが必要です。詳細は[こちら](#)をご参照ください。(英語)

6. システムの復元完了後、特定のハードウェアのドライバー（.inf ファイル）を要求するウィンドウが起動する場合があります。リスト表示されるハードウェア情報の中から適切なドライバーを探して追加すればシステム移行完了後に利用できるようになります。

クローン

ドライブの不具合や容量不足のため、Windows を収録したハードドライブを交換する場合、「クローン」機能を使って容易にディスクのクローンを作成することができます。

ディスククローン

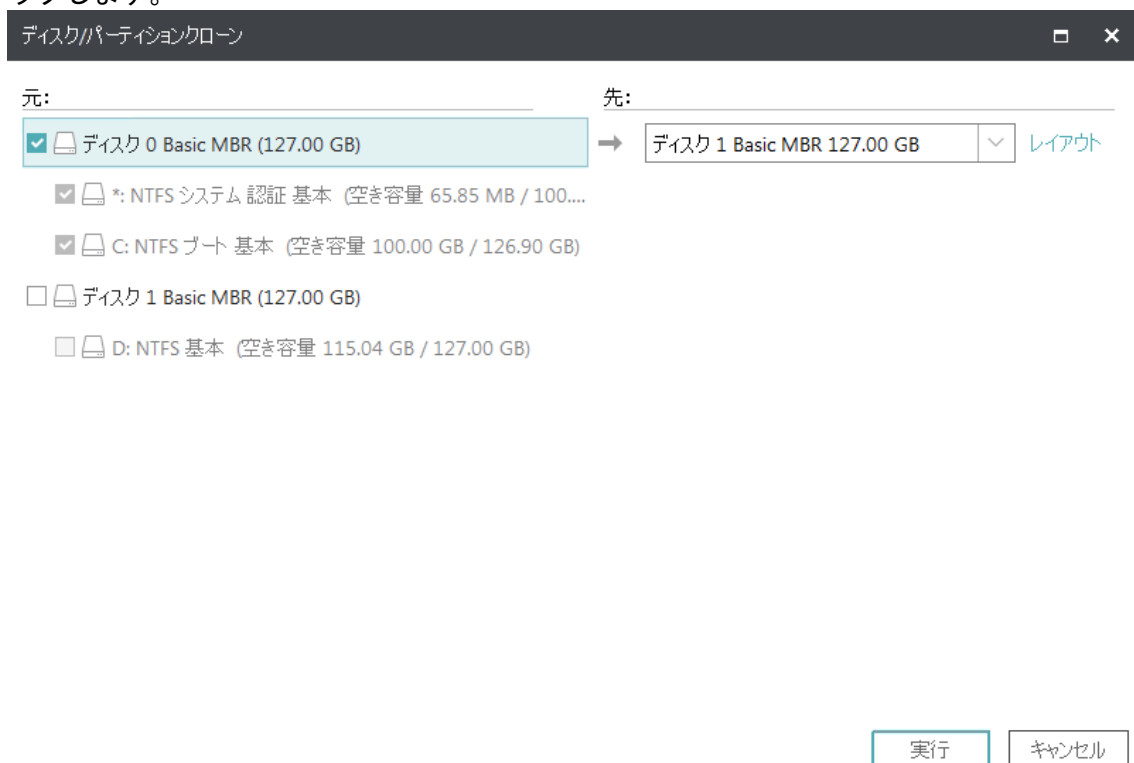
OS やプログラムを含む全てのデータを別のディスクにクローンします。ハードディスクを新しいものに交換する場合に特に便利な機能です。クローン先のディスクは元のディスクより容量の大きなものを使用してください。

手順

1. ツールから「クローン」をクリックします。

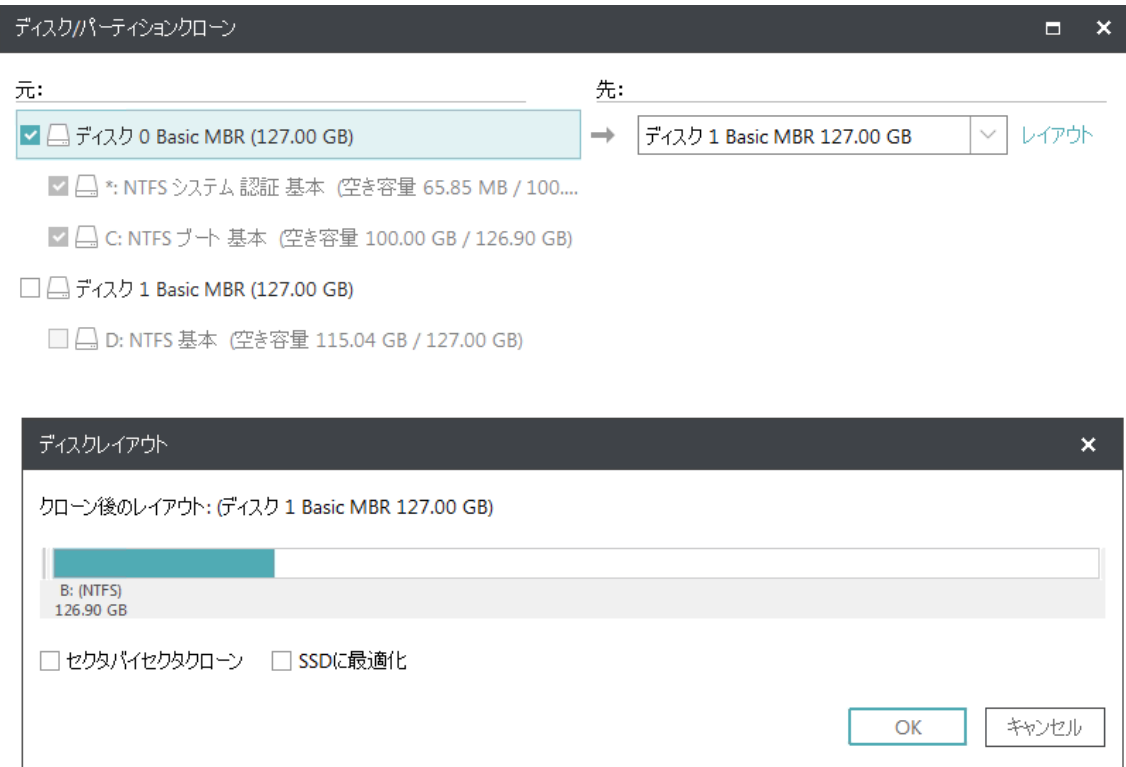


2. ソースとなるディスクを選択し、ターゲットとなるディスクを選択して「実行」をクリックします。



ヒント：

「レイアウト」をクリックすると「リカバリー後のレイアウト」が表示されます。パーティションをスライドしてクローン後のサイズを調整できます。



4. 「OK」をクリックしてディスククローンを開始します。

上級者向けクローン設定

上級者向け設定を活用することで、より安定的でスムーズにクローンを作成できる場合がありますが、これらの上級者向け設定を行わない場合でもシステムの完全なクローンを行うことができます。

SSD に最適化：ターゲットディスクに SSD を設定した場合にチェックを入れると適切なセクタ配列でシステムを復元します。

セクタバイセクタクローン：ソースディスク/パーティションと全く同じ内容のターゲットディスク/パーティションを作成します。空のセクタも含めてクローンするため、全く同じサイズのクローンが作成されます。ディスククローンやパーティションクローンでセクタバイセクタクローンを選択した場合も同一の手順で作成されます。

注意：

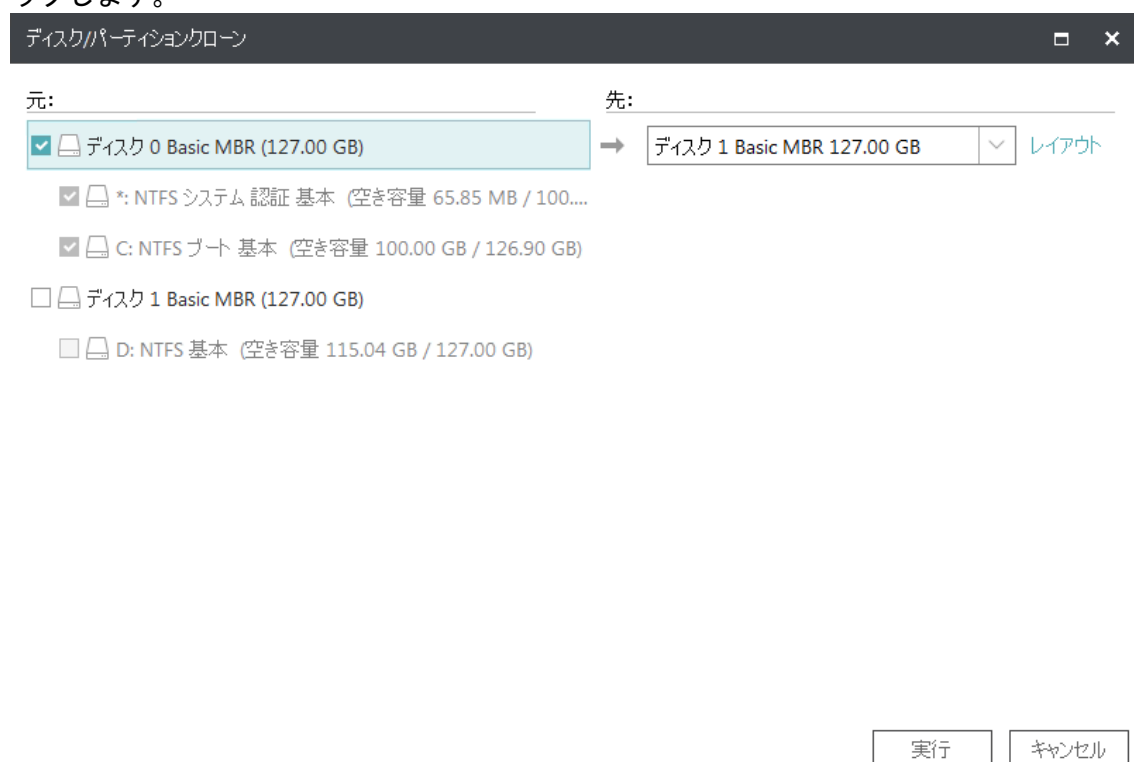
セクタバイセクタモードでクローンしたディスクやパーティションはサイズを調整することができません。

パーティションクローン

バックアップ操作は大変便利でシステマチックな作業ですが、クローン作製もシンプルで直感的な作業でパーティションのコピーを作成します。

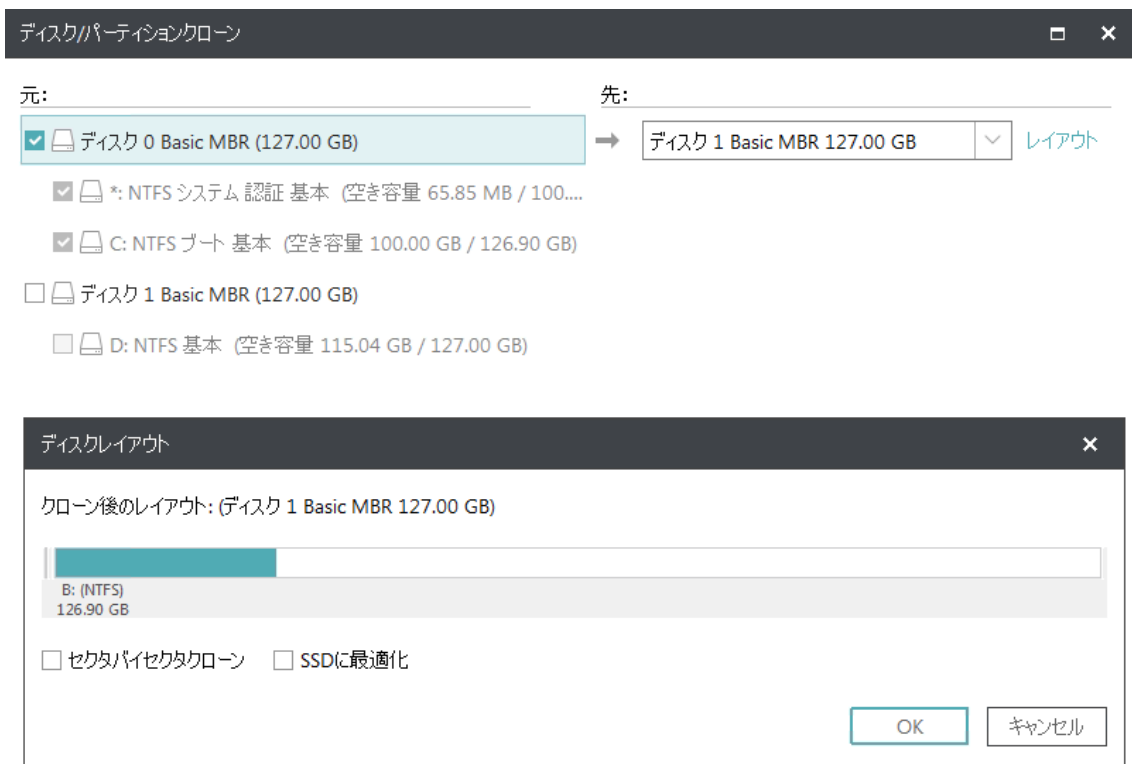
手順

1. ソースとなるディスクを選択し、ターゲットとなるディスクを選択して「実行」をクリックします。



ヒント:

「レイアウト」をクリックすると「リカバリー後のレイアウト」が表示されます。パーティションをスライドしてクローン後のサイズを調整できます。



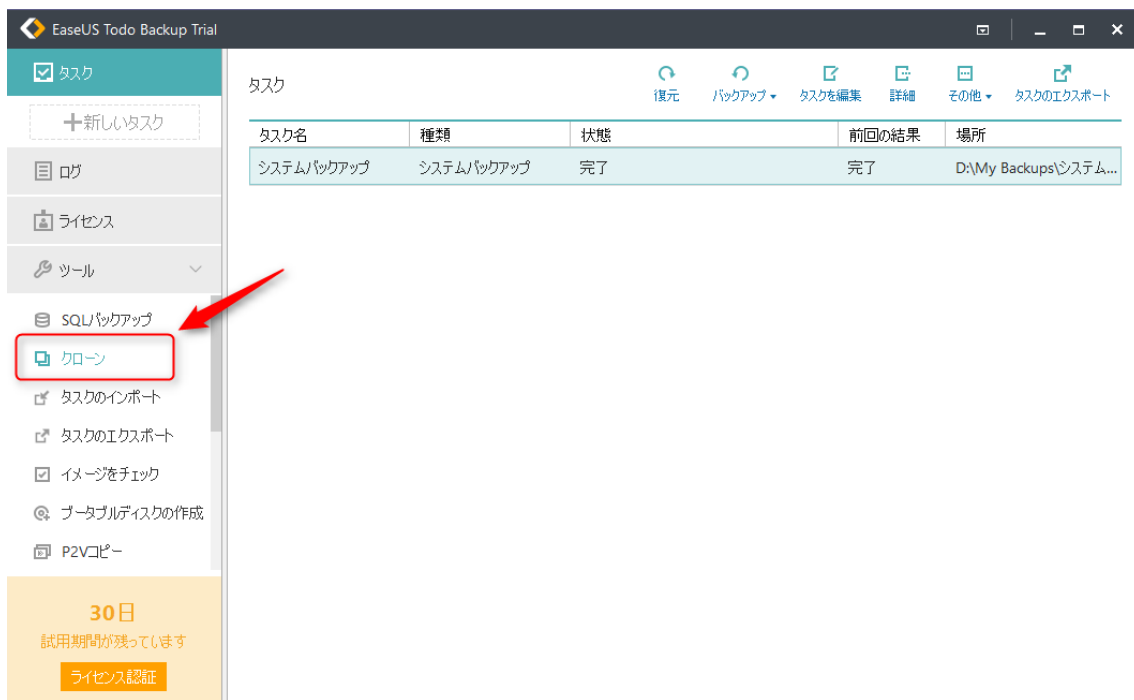
ダイナミックディスク/ボリュームのクローン

EaseUS Todo Backup の「クローン」機能を利用すれば、ダイナミックディスクやダイナミックボリュームのクローンを作成することができます。異なるディスク上に設定されたダイナミックボリュームでも、同じダイナミックディスク上にリスト表示されます。

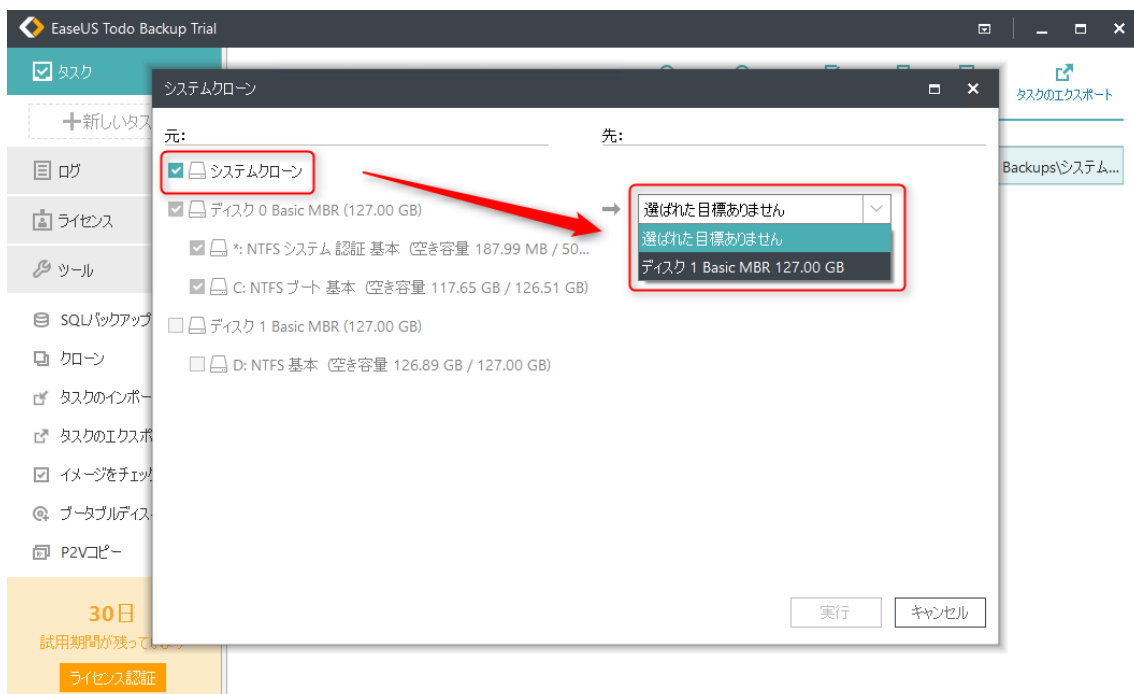
システムクローン

このオプションを使用すると、システムを新しいドライブに移行できます。

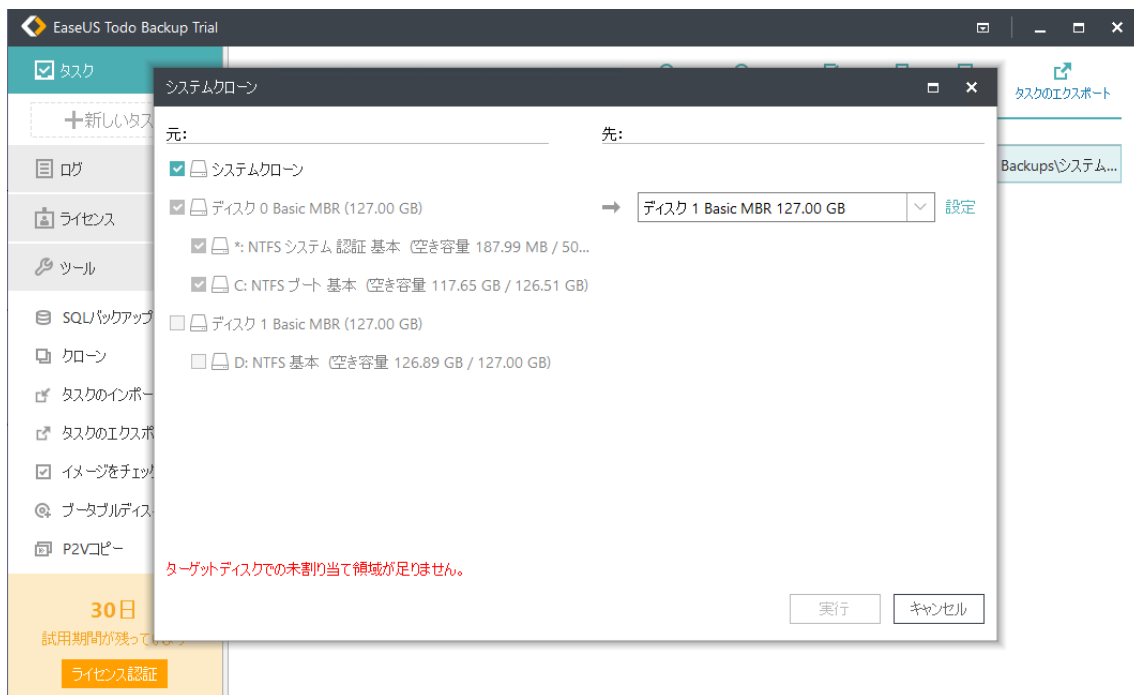
1. [ツール]の[クローン]をクリックします



2. 「システムクローン」を選択します。現在のシステムパーティションとブートパーティションが自動的に選択されます。次に、ドロップダウンボックスでクローンを作成するドライブを選択します。

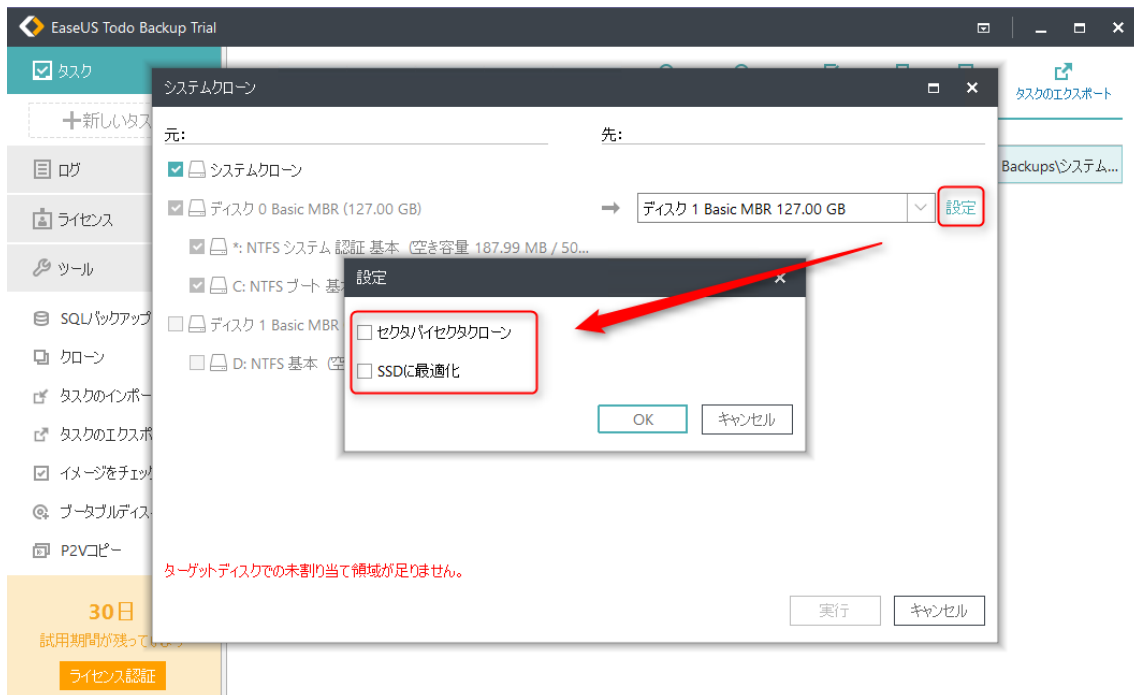


ブートパーティションとシステムパーティションの合計サイズが、ターゲットディスクの未割り当て領域より大きいと以下のように表示されます：



システムクローンは、ターゲットドライブ上にある既存のパーティションの削除や上書きはしません。

3. 「設定」をクリックすると、設定画面が開きます。ターゲットドライブがSSDの場合は、「SSDに最適化」することを強くお勧めします。



4. 「実行」をクリックします。

5. 処理が完了したら、PC をターゲットドライブから再起動してください。

ヒント：

システムパーティションとブートパーティションが同じドライブにない場合、システムクローンを使用することはできません。[こちらの指示に従い](#)、ブートパーティションとシステムパーティションを1つのドライブに結合してください。

上級者向けサーバーツール

E-mail 管理に MS Exchange、関連データのクエリや更新には MS SQL と言った具合にサーバー管理者には様々なツールを操作することが要求されています。ここで扱われるデータは業務上重要なものです。サーバー管理者はデータのセキュリティ、完全性などに責任を負うことが求められています。データを定期的にバックアップすることは、予期せぬ不具合からデータを守ることができるほか、データの状態を維持すると言う点でも非常に有効です。

EaseUS Todo Backup の「Advanced Server」および「Technician」を使用すれば、Exchange サーバー、MS SQL サーバーおよびイメージアーカイブをテープにバックアップすることができます。

Exchange のバックアップ

Exchange サーバーは Microsoft Exchange がインストールされた物理/仮想サーバーで、マイクロソフト製のサーバー向け製品です。電子メール、カレンダー、連絡先およびタスクをつかさどります。モバイルおよびウェブからの情報アクセスに対応しているほか、データ保存にも対応しています。最新の EaseUS Todo Backup を使用すれば、ストレージグループと個別メールフォルダをバックアップユニットとして選択することができます。

*EaseUS Todo Backup は以下のバージョンに対応しています。
Exchange 2003, 2007, 2010 and 2013*

バックアップの開始

バックアップ前に Exchange サーバーがマウントされていることをご確認ください。
「その他のバックアップ」>「Exchange のバックアップ」をクリックして開始します。

1. タスク/プラン名と詳細を指定します。
2. バックアップソースを選択します。以下の2種類から選択できます。

ストレージグループモード
メールボックスモード

3. イメージファイルの保存先を指定します。ローカルディスク、ネットワークフォルダもしくはテープドライブのいずれかを選択します。下向き矢印をクリックして履歴を確認します。

4. 「実行」をクリックして設定を終了します。スケジュールを設定していない場合、すぐにバックアップが実行されます。

復元の開始

Exchange のバックアップと反対の手順でおこないます。Exchange のストレージグループもしくはメールフォルダを復元します。

1. Exchange のバックアッププランを選択して復元をクリックします。

2. Exchange イメージの履歴から復元に使用するものを選択します。

3. 復元するストレージグループ/メールボックスを指定します。必ずしも全てを選択する必要はありません。複数のストレージグループを含むイメージファイルの任意の一つに記録されたストレージファイルの復元と言った部分的な復元もできます。

4. 現在の復元に関する詳細を確認し、「実行」をクリックします。

EaseUS Todo Backup はストレージグループを元の位置に自動で復元します。復元先を指定する必要はありません。

注意：

メールボックス復元時でも既存のメールが上書きされることはありません。

SQL バックアップ

SQL とは Structured Query Language の頭文字をとったもので、関係データベース管理システムにおけるデータ管理のために設計されています。Microsoft SQL Server の主な機能にはデータの挿入、クエリの更新/削除、スキーマの作成/変更およびデータコントロールのアクセスなどが挙げられます。本製品は MS SQL 2000/2005/2008 に対応しています。MS SQL のバックアップファイルの拡張子は「.bak」です。

ログイン

メニューから「その他のバックアップ」>「SQL バックアップ」をクリックします。認証画面が起動しますので、Windows 管理者もしくは SQL サーバーアカウントを入力して認証します。認証の際にはログインするインスタンスを選択してください。

ホーム

認証後、データベースリスト、バックアップタスクリストおよび利用可能なオプションを表示した SQL バックアップのホーム画面が表示されます。

プログラム左画面に全てのデータベースが表示されます。その中から作業をおこなうデータベースを1個または複数個選択します。画面左下の「切断」ボタンをクリックするとインスタンスへの接続が切断されログイン画面に戻ります。「再読み込み」をクリックするとインスタンス内の変更内容を反映します。

バックアップ

通常のデータや Exchange のデータをバックアップする場合とは異なり、バックアップページ内の関連する全てのパラメーターを1ステップで設定し、SQL データベースをバックアップすることができます。

基本情報

タスク名： 現在のタスク名を入力します。

ターゲット： イメージファイルの保存先を指定します。

エラー時に続ける： メディアのエラーを無視するか否か選択します。

プラン

ここで扱う全てのオプションは「スケジュール」を有効にすると利用可能になります。「スケジュール」を有効にすると、毎日、毎週、毎月から実行間隔を設定し、使用するプランを選択できるようになります。

完全： 全てのデータベースとトランザクションログをバックアップします。

差分： 前回の完全バックアップ以降に変更されたファイルのみバックアップします。トランザクションログも含まれます。

トランザクションログ： トランザクションログのみバックアップします。

オプション

圧縮： バックアップイメージを圧縮するかしないか選択します。(MS SQL Server 2008 Enterprise 以上のバージョンで有効)

通知： バックアップ結果をメールで通知するかしないか選択します。詳細は別項を参照してください。

復元モード

復元モードを設定します。

シンプル： ログのバックアップはおこないません。ログを自動消去して必要な領域を節約し、トランザクションログの保存領域の管理をおこなう必要がなくなります。データベースをシンプルモードにすることで、ログをバックアップする必要がなくなり、完全バックアップのファイルを利用して復元することになります。

完全： ログのバックアップが必要です。全てのログがバックアップされるので個々のトランザクションを復元することができます。

バルクログ： ログのバックアップが必要です。パフォーマンスの高い大量コピーが可能となり、最低限の記録をおこなうためにログ領域を節約できます。

復元

MS SQL イメージファイルの復元方法について説明します。

1. 復元ページを表示します。
2. データベースを選択し、復元するイメージを指定します。
3. 「**復元モードの選択**」で復元先のデータベース名と位置を指定し、既存のデータベースに上書き、もしくは新しいデータベースに復元するか選択します。

「**エラーでも続ける**」を選択した場合は全てのエラーをスキップします。

4. 「**実行**」をクリックします。

エクスポート/インポート

エクスポート

データベースを MDF ファイルもしくは LDF ファイルのいずれかでエクスポートします。手順の詳細は次の通りです。

1. プログラム画面左のデータベースリストからエクスポートするデータベースを選択します。
2. MDF もしくは LDF ファイルの保存先を指定します。
3. 「実行」をクリックします。

インポート

「参照」をクリックして MDF ファイルをインポートします。データベースの操作記録が不要な場合はログファイルの裏にある「参照」は無視して構いません。

MDF ファイルのインポート時に既存のデータベースを上書き、もしくは新しいデータベースを作成から選択することができます。

ログ

全ての操作はログファイルに記録されており、完了したタスクや完了日時等を確認できます。

ヒント:

「クリア」ボタンは十分注意してクリックしてください。ログファイル内の全ての情報が消去されます。

ツール

「ツール」メニュー内には、バックアップの効率化とフレキシビリティの向上に役立つ便利なオプションがあります。

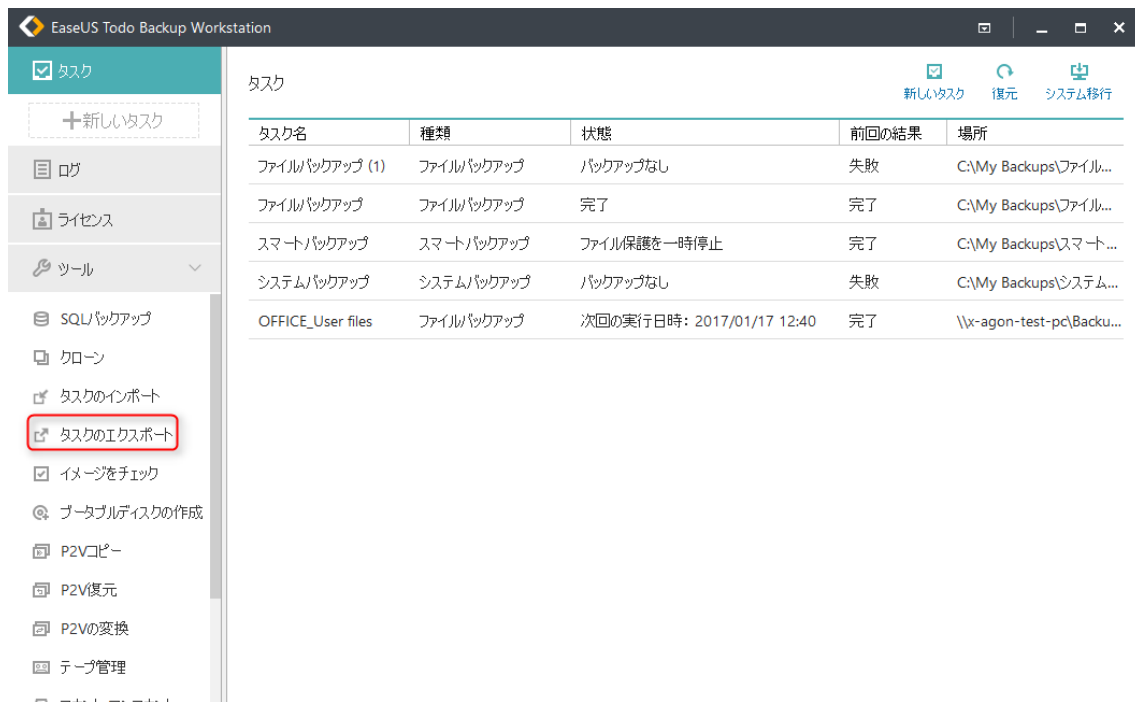


タスクのインポート/エクスポート

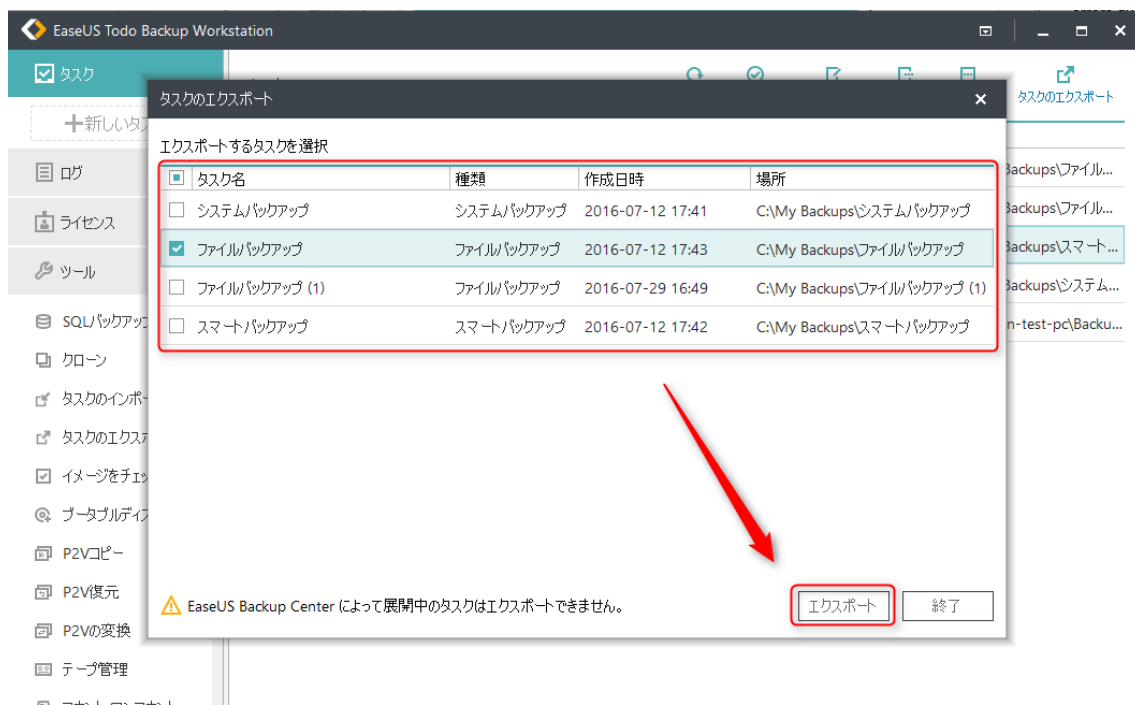
バックアップタスクをエクスポートしてアーカイブすることで、プログラムやシステムの障害によってタスクが失われたり、破損することを防ぐことができます。エクスポートされたタスクは、同じコンピュータ、または Todo Backup がインストールされた他のコンピュータにいつでもインポートできます。

タスクのエクスポート

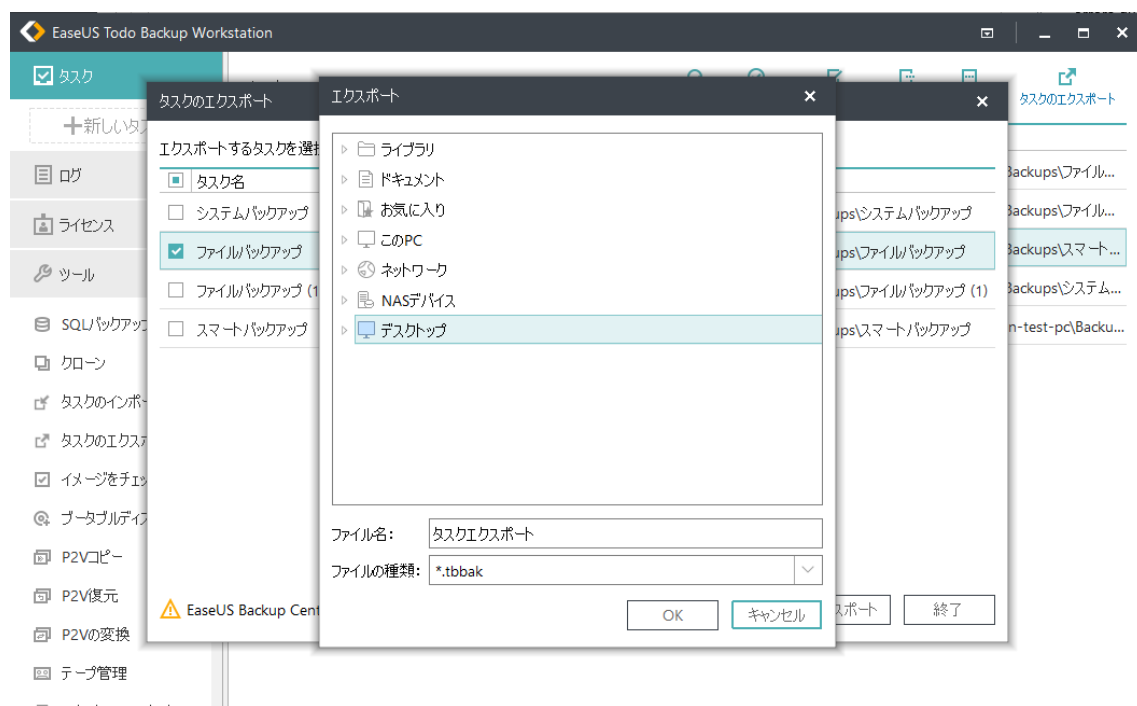
1. [ツール]の[タスクのエクスポート]をクリックします。



2. すべてのバックアップタスクが[タスクのエクスポート]ウィンドウに表示されます。エクスポートしたいものを選択し、[エクスポート]をクリックします。



3. ファイルの名前を変更し、保存先を選択します。ファイルは拡張子".tbbak"で保存されます。

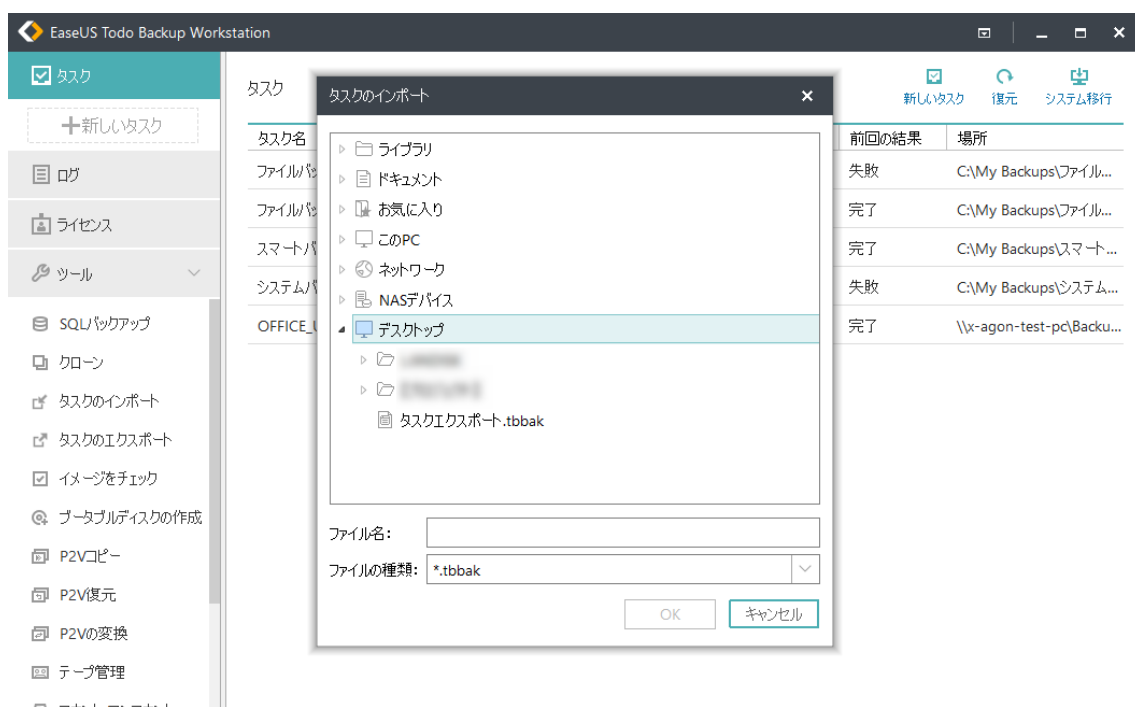


タスクのインポート

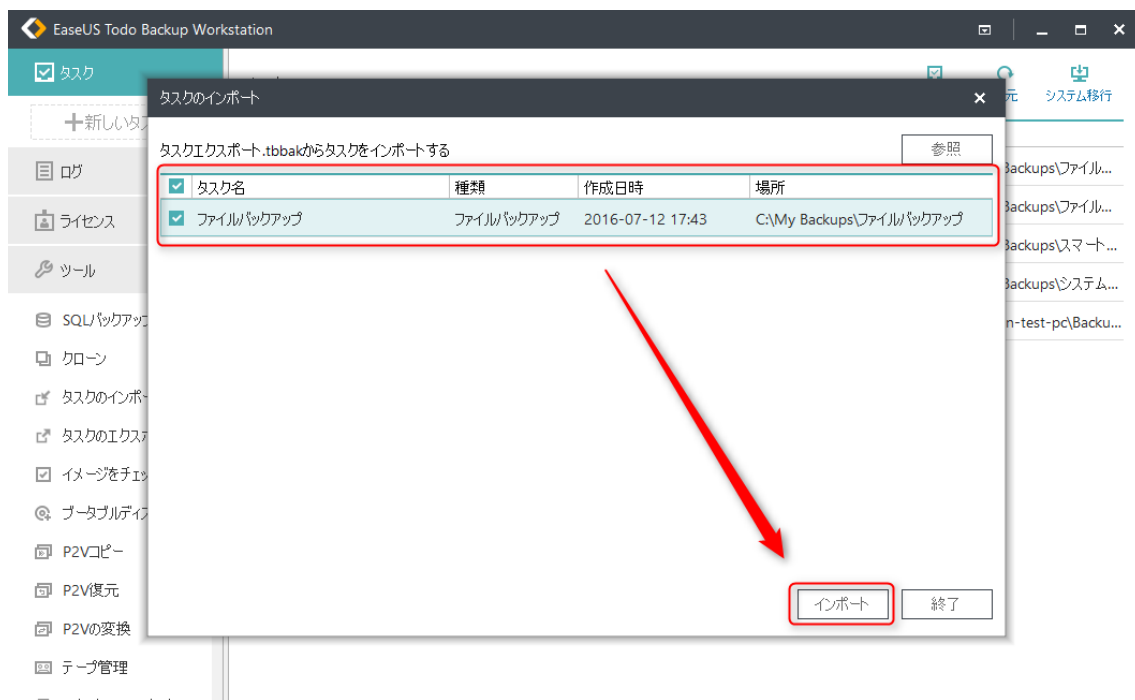
1. [ツール]の[タスクのインポート]をクリックします。



2. エクスポートされたタスクのある場所を開き、インポートする".tbbak"ファイルを選択します。



3. インポートするタスクを選択し、[インポート]をクリックします。



4. タスクウィンドウに戻り、インポートされたバックアップタスクが表示されます。

注意：

インポートされたバックアップタスクは、指定されたバックアップ元が見つからないか、ハードドライブ構成の変更によりターゲットパスにアクセスできないなどの理由により、スケジュール通りに実行されないことがあります。

その場合は、タスクを編集して設定しなおしてください。

上記の理由により、タスクを別のコンピューターにインポートした場合は、すべての設定の更新と見直しを行い、タスクが正しく実行されるか確認することを強くお勧めします。

イメージをチェック

イメージのチェックを使用してイメージファイルの有効性を確認できます。チェック中にエラーが確認された場合、そのイメージは破損しており、復元に使用できない場合があります。

「イメージをチェック」をクリックし、チェックするイメージファイルを選択、あるいはプログラム画面右上にある「参照」をクリックすれば、単一のイメージファイルをチェックすることができます。

タスクを選択してイメージをチェック

参照...

バックアップタスク	バックアップタイプ	作成日時	場所
ファイルバックアップ	ファイルバックアップ	2016-09-06 14:13	D:\My Backups\ファイルバックアップ
システムバックアップ	システムバックアップ	2016-09-06 13:43	D:\My Backups\システムバックアップ
Local Disk (C)	ディスク/パーティションバックア...	2016-08-26 15:33	D:\My Backups\Local Disk (C)
スマートバックアップ	スマートバックアップ	2016-08-26 14:45	D:\My Backups\スマートバックアップ

☒ 完全チェック ?

実行

キャンセル

注意：

バックアッププランに含まれる全てのイメージがチェックされます。従って多数のイメージがあるバックアッププランのチェックには時間がかかります。

ブータブルディスクの作成

EaseUS Todo Backup を使用してブータブル USB ディスク、CD あるいは DVD を作成することができます。これらは Windows が起動できなくなった場合に使用します。

ブータブルディスクの作成方法

1. 「ツール」 > 「ブータブルディスクの作成」をクリックします。
2. 次に、WinPE ブータブルディスクもしくはLinux ブータブルディスクのいずれかから作成するブータブルディスクの種類を選択します。

ブータブルディスクの作成



ブータブルディスクの種類:

- ☒ WinPEブータブルディスクの作成
☐ Linuxブータブルディスクの作成

USB CD/DVD **ISO**

エクスポート先:

[参照...](#)

ブータブルディスクを作成できない場合、サードパーティソフトウェアを使用し、Emergencydisk.isoを作成してください。

実行

キャンセル

「対応モード」にチェックを入れると、現在のPCから必要なドライバーを取得し、WinPEブータブルディスクに記録します。作成したブータブルディスクを使用してシステムを起動できない場合、「対応モード」にチェックを入れてディスクを再作成してください。
3. USBディスクを使用してブータブルUSBディスクを作成する場合やCD/DVDを使用してブータブルCD/DVDを作成する場合は、該当する作成方法を選択して「実行」をクリックします。

注意:

WinPEブータブルディスクとLinuxブータブルディスクに関する詳細は[こちら](#)を参照してください。(英語)

WinPEブータブルディスクに関する情報 (英語):

WinPE環境下でドライブが表示されない

WinPE環境下でネットワークに接続できない

テープ管理

データの長期保存のためにテープ媒体を使用している場合、ラベルを見ないと内容を把握することができません。テープ管理機能を利用すればテープに記録されたイメージを管理することができるようになります。

この機能を使ってテープに収録されたイメージをローカルドライブに「コピー」、テープを「取り出し」、データを「消去」といった操作ができます。

Pre-OS を有効/無効にする

Pre-OS は、予期せぬ不具合でシステムが起動できなくなった場合に WinPE ブータブルディスクの代わりに使用することができます。

Pre-OS の有効/無効の切り替えをおこないます。
ボタンの表示は Pre-OS の現在の状態に依存します。Pre-OS が有効になっている場合、ボタンの表示は Pre-OS を無効化となります。

Pre-OS が有効化されると PC 起動時に EaseUS ブートメニューが立ち上がります。選択後に Windows へのログイン画面ではなく、EaseUS Todo Backup に入ることができます。

EaseUS Todo Backup のエディションによって 2 種類の Pre-OS 環境があります。

Linux Pre-OS

全ての Linux ベースのトライアル版向けで、「復元」と「クローン」の 2 種類の基本的なオプションのみ選択可能です。

Windows Pre-OS

WinPE ブータブルディスク作成後、Linux Pre-OS は Windows Pre-OS に変換されます。ほぼ全ての機能が使用できるようになります。

ISCSI イニシエーター

iSCSI デバイスを接続、構成します。

2 種類の接続モードがあります。

クイック接続

「ターゲット」タブの「クイック接続」テキストボックス内にターゲットデバイスの名称または IP アドレスを入力します。続いて「クイック接続」をクリックします。

アドバンスド接続

1. 「ディスカバリー」タブをクリックします。
2. 「ポータルを検索」をクリックしてターゲットポータルを追加します。「IP アドレス」または「名前」を入力して接続します。

接続が確立されると *iSCSI* ドライブをローカルのハードドライブのようにバックアップしたり復元したりすることができます。

PXE を有効/無効にする

PrebootExecution 環境ではネットワークインターフェイス付の PC をデータ保存デバイスから独立して起動することができます。

EaseUS Todo Backup PXE サーバーを使用すれば、ネットワーク起動付きのターゲットマシン上で EaseUS Pre-OS 環境を立ち上げることが可能です。本機能はベアメタル回復やネットワーク構築の際に使用します。

次のエディションでご利用いただけます。

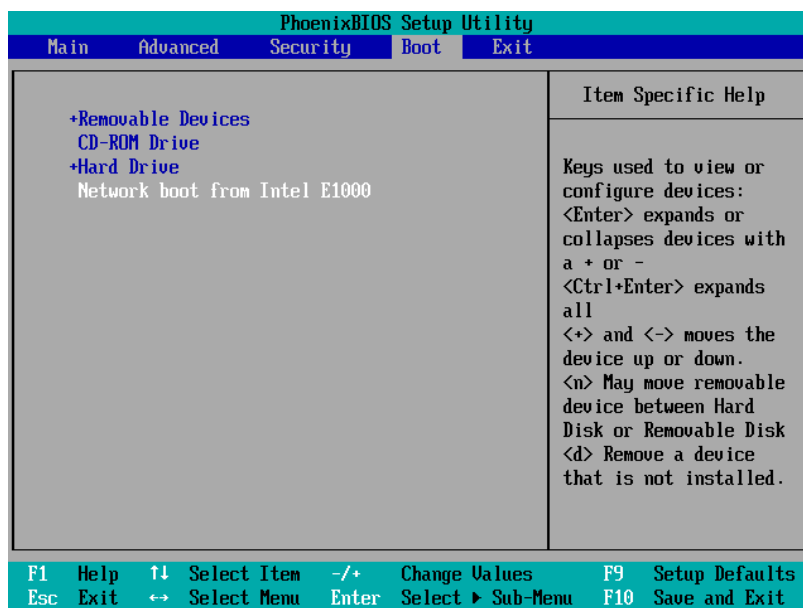
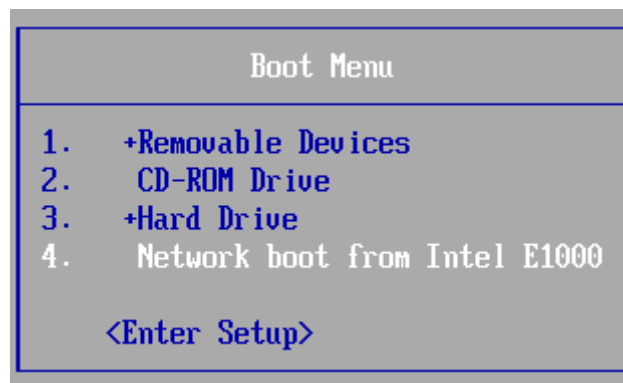
EaseUS Todo Backup Server

EaseUS Todo Backup Advanced Server

EaseUS Todo Backup Technician

「ツール」内の「PXE を有効化」をクリックして本機能を有効化します。ブートイメージフォルダが自動構成されます。

PXE ブートに対応したクライアントマシンのネットワークインターフェイスカードを確認します。BIOS 設定の「Network boot」を選択してください。PXE サーバーへの接続が確立されると、クライアントマシンをネットワーク経由で起動できるようになります。



注意：

ネットワーク上に有効な DHCP (Dynamic Host Control Protocol) があることを確認してください。起動中のコンピューターが IP アドレスを自動取得し、EaseUS Todo Backup PXE 環境下に起動することができます。

P2V コピー

EaseUS Todo Backup では、物理マシンから仮想マシンに容易かつ効率的にドライブを移動できる P2V ツールをお使い頂けます。

起動中のシステムを仮想環境に変換する場合は、「ツール」 > 「P2V コピー」をクリックしてください。バックアップや復元をおこなうことなく仮想マシンを作成することができます。

P2Vコピー
×

☒ ディスク 0 Basic MBR (127.00 GB)

☒ *: NTFS システム 認証 基本 (空き容量 65.85 MB / 100.00 MB)

☒ C: NTFS ブート 基本 (空き容量 100.00 GB / 126.90 GB)

☐ ディスク 1 Basic MBR (127.00 GB)

☐ D: NTFS 基本 (空き容量 115.04 GB / 127.00 GB)

ターゲット:

D:\My Backups

空き容量 115.04 GB / 127.00 GB

▼

参照...

仮想マシン名:

Windows_7_x64

パラメーター

VMware Workstation ▼
VMware Workstation 7.0 ▼
ハードウェア構成

実行

キャンセル

1. 変換するディスク/パーティションを選択します。システムパーティションおよびブートパーティションが初期設定されており、これらは選択解除することができません。これら以外に変換するパーティション/ディスクを追加します。
2. ターゲットとなる仮想マシンを指定します。ローカルディスクとネットワークフォルダを保存先に設定することができます。下向き矢印をクリックすると履歴から選択できます。
3. 仮想マシンのパラメーターを構成します。

仮想マシン名

仮想マシンの名前を編集します。OS の名称が初期設定されています。

仮想ソフトの開発元

仮想マシンの変換後の種類を指定します。VMWare Workstation および MS Virtual PC に対応しています。

バージョン

変換された仮想マシンで仮想ソフトウェアを正しく動作するため、適切なバージョンを選択します。

仮想マシンの編集

仮想マシンのプロセッサやコア数、メモリー容量、ハードディスクの種類や容量などの設定を編集します。

P2V 復元

P2V 復元を利用すればEaseUS ディスク/バックアップイメージを仮想マシン上に復元することができます。「ツール」>「P2V 復元」をクリックしてください。

P2V復元

復元するタスクを選択

参照...

バックアップタスク	バックアップタイプ	作成日時	場所
システムバックアップ	システムバックアップ	2016-09-06 13:43	D:\My Backups\システムバックアップ
Local Disk (C)	ディスク/パーティションバックア...	2016-08-26 15:33	D:\My Backups\Local Disk (C)

次へ

キャンセル

1. 復元するバックアッププランを選択します。システムバックアップもしくはシステムを含んだディスク/ボリュームバックアップを指定してください。リスト内にバックアップがない場合は「参照」をクリックして手動入力してください。
2. ターゲットとなる仮想マシンを指定します。ローカルディスクとネットワークフォルダを復元先に設定することができます。下向き矢印をクリックすると履歴から選択できます。
3. 仮想マシンのパラメーターを構成します。

P2V の変換

簡単な作業で作成した EaseUS ディスク/パーティションイメージを仮想ディスクに変換することができます。「ツール」>「P2V の変換」をクリックしてください。

P2Vの変換
×

システムバックアップ

2016/09/06 13:44 完全バックアップ

▼

☒

ディスク 0 Basic MBR (127.00 GB)

*: NTFS システム 認証 基本 (空き容量 65.82 MB / 100.00 MB)

C: NTFS ブート 基本 (空き容量 100.00 GB / 126.90 GB)

ターゲット:

D:\My Backups

空き容量 115.04 GB / 127.00 GB

▼

参照...

仮想マシン名:

システムバックアップ

パラメーター

VMware Workstation ▼

戻る

実行

キャンセル

1. 復元するバックアッププランを選択します。システムバックアップもしくはシステムを含んだディスク/ボリュームバックアップを指定してください。リスト内にバックアップがない場合は「参照」をクリックして手動入力してください。
2. 変換するパーティションもしくはハードディスクを選択します。
3. 仮想ディスクの保存先を指定します。ローカルディスクとネットワークフォルダを復元先に設定することができます。下向き矢印をクリックすると履歴から選択できます。
4. 仮想ディスクのパラメーターを構成します。

仮想ディスク名：仮想ディスクの名前を指定します。

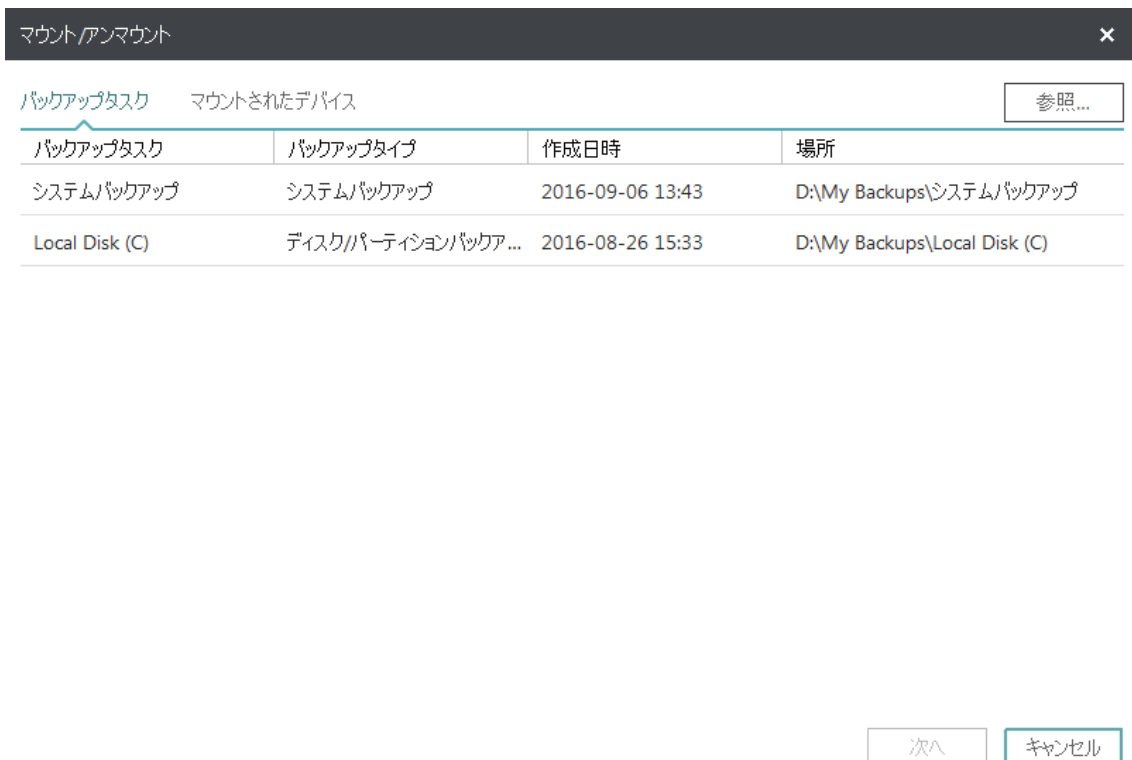
仮想ソフトウェアの開発元：.vmdk もしくは .vhd を作成する VMware あるいは仮想 PC を指定します。

マウント/アンマウント

マウント機能を使ってディスク/パーティションイメージもしくはシステムイメージ (*.PBD file) 内のファイルやフォルダを参照/確認することができます。全てのイメージを復元することなくマウントされたドライブから必要なファイルを直接コピーすることができます。

本機能を使用して作成したイメージの有効性を確認することもできます。

66



1. 「ツール」 > 「マウント/アンマウント」を選択すると、利用できるバックアップが一覧表示されます。
 2. 使用するバックアップを選択し、「次へ」をクリックします。
 3. 「ソース」を選択し、「次へ」をクリックしてマウントを実行します。
- イメージをアンマウントする場合は画面上部の「マウントされたデバイス」をクリックします。

ヒント：

本機能は「ディスク/ボリュームバックアップ」と「システムバックアップ」にのみ対応しています。

暗号化されたアーカイブをマウントする場合はパスワードを入力してください。

完全なアクセス権を維持するため、イメージの作成とそのマウントは同一の Windows アカウント内で実行してください。

マウントされたドライブはコンピューター再起動後に自動消去されます。

WinPE の特別ツール

WinPE と Pre-OS 環境ではスムーズに復元をおこなえるようにするため、「ツール」内のオプションのいくつかが新しいものと入れ替わります。

Windows シェル

MS-DOS コマンドボックスを起動して異なるコマンドを入力してバックアップの効率や安全性を向上させることができます。例えば、パーティションのバックアップ前に CHKDSK でエラーチェック、Drvload でハードウェアを追加、DISKPART でパーティションの作成といった操作ができます。

Windows のコマンドに関する知見のある方向けの機能です。

ドライバマネージャー

WinPE および Pre-OS 内にインストールされたドライバがないと認識されない RAID、SCSI およびネットワークカードがあります。このオプションを使用すればそのようなハードウェア向けにドライバを追加でき、スムーズに復元作業をおこなえます。

ネットワークマネージャー

ネットワークアクセスパラメータの管理もしくは設定の際に共有フォルダの読み込みに失敗した場合に使用するオプションです。

ネットワークドライブのマッピング： バックアップあるいは復元するドライブをローカルドライブとしてマッピングします。

ネットワークドライブの編集： マッピングされたドライブのパラメーターを変更します。

ネットワークドライブの切断： 「ネットワークドライブのマッピング」で作成したマッピングされたドライブを消去します。

IP 設定： IP パラメーターを構成します。

MBR の修理

「**MBR の修理**」を使用して MBR セクタに新しいブート情報を記入することでブート時の問題を解決できる場合があります

WinPE Pre-OS または WinPE ブータブル環境内の「ツール」から「**MBR の修理**」をクリックして起動し、修理するディスクを選択して「**実行**」をクリックします。

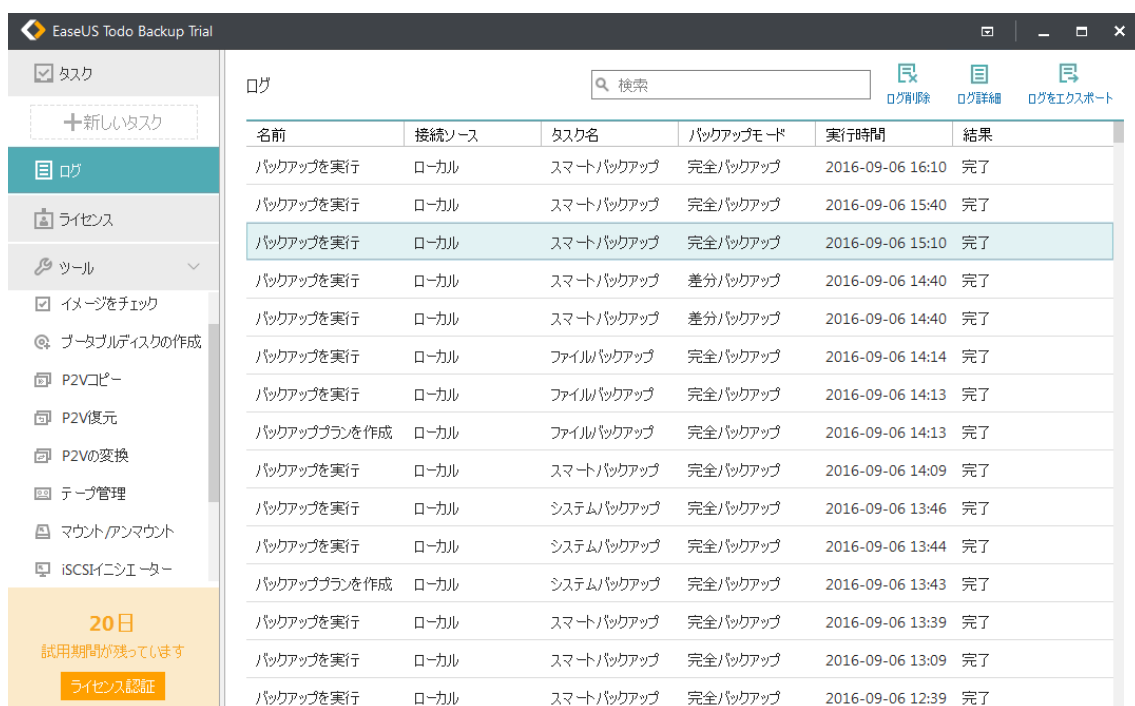
パーティションのチェック

パーティションに論理エラーがある場合、本製品を使ったバックアップができないことがあります。そのため、パーティションのエラーをチェックし、修復してからバックアップ

する必要があります。この機能は WinPE Pre-OS もしくは WinPE ブータブル環境のみで利用することができます。「ツール」>「パーティションのチェック」を選択し、「次へ」をクリックして開始してください。

ログ

「ログ」をクリックすると、保存されている全てのバックアップ操作と結果が表示されます。失敗した操作は赤で示されます。「ログ詳細」をクリックして内容を確認できます。



名前	接続ソース	タスク名	バックアップモード	実行時間	結果
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 16:10	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 15:40	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 15:10	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	差分バックアップ	2016-09-06 14:40	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	差分バックアップ	2016-09-06 14:40	完了
バックアップを実行	ローカル	ファイルバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 14:14	完了
バックアップを実行	ローカル	ファイルバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 14:13	完了
バックアッププランを作成	ローカル	ファイルバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 14:13	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 14:09	完了
バックアップを実行	ローカル	システムバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 13:46	完了
バックアップを実行	ローカル	システムバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 13:44	完了
バックアッププランを作成	ローカル	システムバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 13:43	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 13:39	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 13:09	完了
バックアップを実行	ローカル	スマートバックアップ	完全バックアップ	2016-09-06 12:39	完了

以下の操作が可能です：

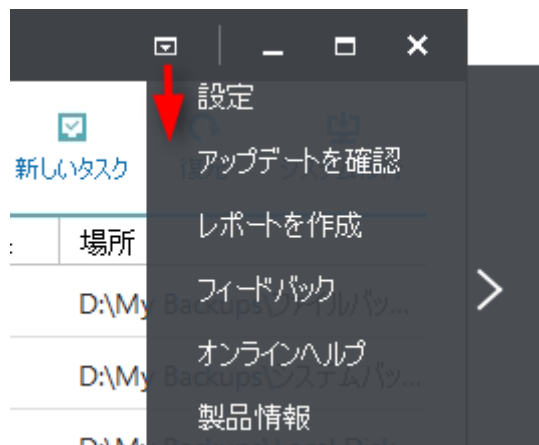
「ログをエクスポート」：全てのログを CSV もしくは XLS ファイルに出力します。

「ログ削除」：選択したログを消去します。

「ログ詳細」：個々の操作の詳細を表示します。

基本設定

プログラム画面右上にあるドロップダウンメニュー内に「設定」があります。



「設定」をクリックすると、次のような設定画面が表示されます。「言語」は日本語のみ選択できます。また、「バックアップの保存先」もここで設定できます。

設定

言語

日本語

バックアップの保存先(既定)

D:\My Backups

空き容量 101.04 GB / 127.00 GB

参照

☒ アップデートを自動的に確認

☒ ユーザーエクスペリエンス向上プログラムに参加

☒ バックアップ時に通知トレイに表示

保存

キャンセル

その他の項目については次の通りです：

「アップデートを自動的に確認」のチェックを解除すると、アップデート情報が通知されません。

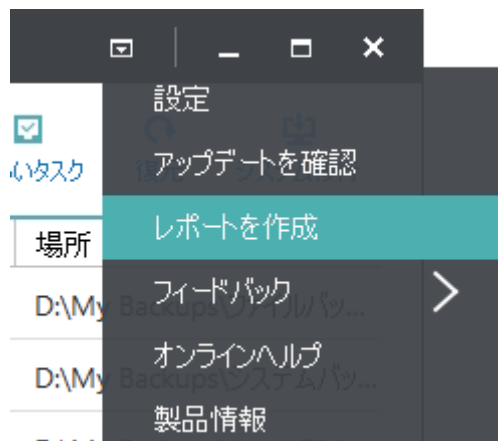
本製品の動作情報を提供して製品の改良にご協力いただける場合は「ユーザーエクスペリエンス向上プログラムに参加」にチェックを入れてください。

「バックアップ時に通知トレイを表示」のチェックを解除すると、システムトレイに通知が表示されなくなります。

サポート

本マニュアルに記載のない項目でも[ナレッジベース](#)に記載がある場合があります。また、EaseUS Todo Backup のよくあるトピックや詳細情報も利用可能です。(英語)

エラーや不具合を発見した場合、「**レポートを作成**」して送信してください。



免責

本マニュアルは 2016 年 9 月 1 日現在

http://www.easeus.com/support/download/docs/pdf/Todo-Backup_V9.2_online_help_For-Enterprise.pdf にて公開されている英文マニュアルを編集・和訳したものです。英文マニュアルに変更が生じた場合、および英文と和訳の間で記載内容や解釈に差異がある場合は原則として英文記載の内容または解釈が優先されます。また、マニュアルの記載内容と実際のソフトの状態に差異がある場合は、ソフトの状態を優先します。